

# 宮城県慶長使節船ミュージアム 改修基本計画

令和2年3月  
宮城県



## 目 次

|      |                              |    |
|------|------------------------------|----|
| I.   | 基本計画策定に当たって .....            | 1  |
| 1.   | 基本的考え方 .....                 | 1  |
| (1)  | 背景（これまでの経緯） .....            | 1  |
| (2)  | 改修基本計画の基本理念 .....            | 3  |
| (3)  | 改修基本計画の基本方針 .....            | 4  |
| 2.   | 個別の施策・取組 .....               | 5  |
| (1)  | 誘客 .....                     | 5  |
| (2)  | 展示リニューアル .....               | 6  |
| (3)  | 後継船整備 .....                  | 7  |
| (4)  | 復元船解体・再利用 .....              | 7  |
| 3.   | 改修基本計画の位置付けと構成 .....         | 8  |
| II.  | 現状と課題 .....                  | 9  |
| 1.   | 現施設設計時の考え方及び現施設の課題 .....     | 9  |
| (1)  | 現施設設計時の考え方等 .....            | 9  |
| (2)  | 現施設の課題及び対応 .....             | 11 |
| (3)  | 今後想定される課題及び対応 .....          | 12 |
| 2.   | 対象地の条件及び周辺との関係 .....         | 13 |
| (1)  | 対象地の条件 .....                 | 13 |
| (2)  | 周辺施設等との関係 .....              | 14 |
| III. | 展示計画 .....                   | 16 |
| 1.   | 基本的考え方 .....                 | 16 |
| (1)  | 展示コンセプト .....                | 16 |
| 2.   | 展示テーマ .....                  | 17 |
| (1)  | 改修プランの全体像 .....              | 17 |
| 3.   | 展示シナリオ .....                 | 18 |
| 4.   | 展示展開 .....                   | 20 |
| (1)  | エントランス/ロビー .....             | 20 |
| (2)  | 常設展示室/シアター .....             | 21 |
| (3)  | ドック棟エントランス/東ウィング/西ウィング ..... | 22 |
| 5.   | 展示構成リスト .....                | 26 |
| 6.   | 配置・動線 .....                  | 28 |
| IV.  | 施設計画 .....                   | 30 |
| 1.   | 基本的考え方 .....                 | 30 |
| (1)  | 施設の考え方 .....                 | 30 |
| (2)  | 空間構成 .....                   | 31 |
| 2.   | 建築及びドックの改修検討 .....           | 36 |

|     |               |    |
|-----|---------------|----|
| (1) | 改修・新設の考え方     | 36 |
| (2) | ドック棟の建築リニューアル | 37 |
| (3) | ドックの改修・活用の考え方 | 37 |
| (4) | 展望デッキの新設      | 37 |
| (5) | その他           | 37 |
| V.  | 事業計画          | 38 |
| 1.  | 基本的考え方        | 38 |
| (1) | 国内交流客への対応     | 38 |
| (2) | 外国人観光客への対応    | 39 |
| (3) | 地域利用者への対応     | 40 |
| 2.  | 今後の改修スケジュール   | 41 |
| (1) | スケジュール        | 41 |
| (2) | 事業の概算費用       | 42 |
| VI. | 管理運営計画        | 43 |
| 1.  | 基本的考え方        | 43 |
| 2.  | 開館日時・利用料金等    | 43 |
| (1) | 開館形態          | 43 |
| (2) | 利用料金          | 43 |
| (3) | 管理運営費         | 43 |
| (4) | 運営体制          | 43 |

## 資料編

|    |                                         |     |
|----|-----------------------------------------|-----|
| 1. | 宮城県慶長使節船ミュージアムの今後のあり方検討経緯               | 資-1 |
| 2. | 慶長使節船ミュージアムの今後の整備方針                     | 資-2 |
| 3. | 宮城県慶長使節船ミュージアム<br>改修基本計画策定ワーキンググループ設置要領 | 資-3 |

# 1. 基本計画策定に当たって

---

## 1. 基本的考え方

本計画では、慶長使節船ミュージアムの置かれている現在の状況、及び慶長使節船復元船サン・ファン・パウティスタの老朽化に伴うこれまでの検討経緯等を踏まえ、リニューアル後の「展示」、「施設」、「事業」などの在り方に関する基本的な考え方を整理する。

### (1) 背景（これまでの経緯）

平成2年3月に開催した「地域活性化懇談会」や「文化の波・文化の風起こし懇談会」での「慶長遣欧使節船『サン・ファン・パウティスタ号』復元」の提言を受けて、平成5年に建造された慶長使節船復元船サン・ファン・パウティスタ（以下「復元船」という。）は、平成8年にオープンした慶長使節船ミュージアム（愛称：サン・ファン館）の展示の中核をなすシンボルとして重要な役割を果たしてきた。

県では、復元船の展示と、長期的な維持・保存に向け、計画的な修繕を行ってきたところであるが、平成27年度に実施した「慶長使節船復元船の今後の維持管理に関する調査」の結果、船体の腐朽が相当進行しており、必要強度が著しく低下しているため、直ちに崩壊はしなくても、現状では後5年（令和2年まで）は持たないことが明らかになった。

この調査を受け、県では、復元船の長期的保存に向け、専門家や有識者へのヒアリング、木造船に関する国内外の事例などの調査を重ねてきたところであるが、「木造船として修復しても長期的に保存できる保証が無いこと」、「修復には高度な技術と煩雑な手順、相当の期間を要すること」、「腐朽が進んでおり修復に耐えられないおそれがあること」など、様々な課題が明らかとなった。その後、慶長使節船ミュージアムの指定管理者である公益財団法人慶長遣欧使節船協会が設置した「慶長使節船復元船サン・ファン・パウティスタの今後のあり方検討委員会」における提言内容なども踏まえ、県では平成29年8月に次の「今後の方針」を決定した。

#### 「今後の方針」

- ・慶長使節船復元船サン・ファン・パウティスタを木造船のまま修復し、保存していくことは断念する。
- ・復元船は、日々のメンテナンスを丁寧に行い、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年まで展示する。
- ・（仮称）「慶長使節船ミュージアムの今後のあり方検討委員会」を立ち上げ、2020年以降のサン・ファン・パウティスタ及びサン・ファン館について具体的に検討していく。

この方針の下、平成29年8月から平成31年2月までの間、全6回開催した「慶長使節船

ミュージアムの今後のあり方検討委員会」（以下「あり方検討委員会」という。）における有識者・関係者等の意見などを踏まえて、県では、平成31年2月に「原寸大の迫力を上回る魅力あるミュージアムへの転換」を今後の整備方針とし、個別の取組や復元船の後継船となる展示物（縮尺4分の1，FRP製）を整備することなどを決定した。

本計画は、これらの検討経緯及び令和元年度に全6回開催した宮城県慶長使節船ミュージアム改修基本計画策定ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）での意見等を取り入れながら、慶長使節船ミュージアムの改修等に関する基本的な内容を取りまとめたものである。

## (2) 改修基本計画の基本理念

本計画の基本理念は、次のとおりとする。

サン・ファン・バウティスタ号を取り巻く歴史と、  
牡鹿半島の風土・自然の魅力を引き出し、  
地域に愛されるサン・ファン館への再生

慶長使節船ミュージアムは、慶長使節船ミュージアム条例（平成8年宮城県条例第7号）第2条第1項に定める設置目的の下、平成8年の開館以来、23年以上にわたって活動を展開している。

また、平成21年2月には、博物館法（昭和26年法律第285号）第29条に規定する「博物館に相当する施設」として宮城県教育委員会から登録指定を受けている。

### 慶長使節船ミュージアム条例

（設置）

第2条 慶長遣欧使節船の復元船を展示し、並びに慶長遣欧使節に関する資料を収集し、保管し、及び展示し、併せて慶長遣欧使節及び帆船に関する調査研究及び普及活動を行い、もって郷土の歴史に関する知識の普及及び海洋文化の振興に資するため、慶長使節船ミュージアムを設置する。

この設置目的を踏まえた上で検討する新たな慶長使節船ミュージアムの位置付けとしては、「観光」・「教育」の分野に更に力を入れ、石巻市をはじめとした関係自治体との協力の下、国内交流客だけではなく、外国人観光客の誘客や、地域の方々が集える拠点づくりを目指す。

### (3) 改修基本計画の基本方針

改修基本計画の基本方針は、基本理念を基に次のとおりとする。

#### ① 慶長遣欧使節の歴史を軸にした世界とのつながりの紹介

- ・ 慶長遣欧使節に関する資料の収集・保管・展示を行う施設とする。

#### ② 大航海時代の帆船・海洋文化、造船技術の伝承

- ・ 大航海時代の日本と世界の帆船・海洋文化、造船技術を体験できる施設とする。
- ・ 20世紀最後で最大の木造船を建造した意義を継承する施設とする。
- ・ 帆船・海洋文化の普及活動を行う施設とする。

#### ③ 豊かな風土や地域資源の活用

- ・ 牡鹿半島や太平洋、夕日等、美しい景観が望める施設とする。
- ・ 牡鹿半島・金華山等への玄関口として周遊を促す施設とする。
- ・ 漫画や食などが楽しめる石巻地域の観光スポットと連携した施設とする。

#### ④ 東日本大震災の記録の継承

- ・ 慶長使節船ミュージアムにおける東日本大震災による被災状況と復興の記録を後世に伝える施設とする。



## 2. 個別の施策・取組

本計画では、基本理念・基本方針を実現するため、「誘客」、「展示リニューアル」、「後継船整備」、「復元船解体・再利用」の4つの個別方針を立て、それぞれの項目についての対応策・取組を整理する。

### (1) 誘客

#### <個別方針>

■ サン・ファン館の魅力を地元へアピールし、拡散・循環を通して、国内外への「偉業の伝承」の発信につなげる

#### <対応策・取組>

##### 対応策①：周辺施設と連携した誘客や魅力の発信

- ・ 県内外の類似施設や近隣の観光地と連携し、相互に送客を行う仕組みづくり
- ・ 石巻市内や県内他地域の観光スポットと連携し、国内外に魅力を伝える情報発信施策 等

##### 対応策②：おもてなしやサービスの充実による魅力の向上

- ・ リニューアルに合わせた、更なる誘客につながる来館者サービス
- ・ 慶長使節船ミュージアムにおけるサービス面を改善し、来館者がまた来たいと思う、リピートにつながるおもてなし 等

##### 対応策③：ターゲット別の誘客対応策の実施

- ・ 来館者の中心となる「国内交流客」、「外国人観光客」、「地域利用者」の3つのターゲット設定と、それぞれに対応する誘客策
- ・ 各ターゲットに対する分断的な対応ではない、統合的に対応可能な誘客策 等

## (2) 展示リニューアル

### <個別方針>

- 後継船を主軸に復元船の部材展示やデジタルコンテンツ等の活用で復元船の迫力を補完しつつ、地域の自然・風土を活用した体験型展示等を通して歴史、帆船・海洋文化、造船技術を継承する

### <対応策・取組>

#### 対応策①：地域の自然の魅力の発信

- ・ 牡鹿半島から見た大海原など、自然の魅力を最大限活用した展示
- ・ 復元船に利用した木材のある樹林、周辺の地形の紹介 等

#### 対応策②：これまでの歩みや研究成果を伝える展示

- ・ 復元船の部材の部分展示等により、復元船の規模を表現
- ・ サン・ファン・パウティスタ号を復元した意義や、建造した船大工の紹介
- ・ リニューアルまでの慶長使節船ミュージアムの歩みの紹介 等

#### 対応策③：慶長遣欧使節と地域の歴史を学ぶことのできる展示

- ・ 最新のデジタルコンテンツ等を活用した「慶長遣欧使節」、「伊達政宗・支倉常長」などの人物や歴史背景、大航海の様子を紹介
- ・ 「帆船・海洋文化、造船技術」等を楽しく学ぶことのできる体験型展示
- ・ 東日本大震災を乗り越えた記録、マスト修復時の世界との交流、復元船解体等の紹介 等

### (3) 後継船整備

#### <個別方針>

■展示の主軸とし、約 400 年前の大航海時代の帆船・海洋文化と、26 年前に船大工が蘇らせた造船技術のシンボルとする

#### <対応策・取組>

##### 対応策①：約 400 年前のサン・ファン・パウティスタ号の姿の伝承

- ・帆の張り方やマスト・船体の構造などガレオン船独自の意匠を表現
- ・周辺展示と併せて、船の仕組みや船内の様子など、帆船特有の文化を紹介
- ・当時の乗組員の様子等が分かるような表現 等

##### 対応策②：26 年前の慶長遣欧使節船復元の意義の伝承

- ・史実に忠実に復元された復元船の意匠を可能な限り再現
- ・造船技術展示及び復元船の部材展示の中心としての活用 等

##### 対応策③：新たな価値の追加

- ・漫画やアート等、石巻の魅力となっているコンテンツとの連携
- ・造船過程の体験 等

### (4) 復元船解体・再利用

#### <個別方針>

■26 年前に船大工が蘇らせた復元船の原寸の規模感や迫力、質感を補完しつつ、復元船部材の再生を通して思いを巡らす端緒とする

#### <対応策・取組>

##### 対応策①：約 400 年前のサン・ファン・パウティスタ号の魅力の継承

- ・原寸の大きさを体感
- ・当時の船室や使われ方等の紹介（船内部の高さ、ベッドの小ささ、かまど等） 等

##### 対応策②：26 年前の慶長遣欧使節船復元船の魅力の継承

- ・木材を扱った曲げや削り等、船大工の技術を解説
- ・伝統技法等、石巻の産業として紹介
- ・26 年間展示され続けてきた復元船の木の素材を紹介
- ・県民と協力して復元した歴史の継承 等

### 3. 改修基本計画の位置付けと構成

本計画は、過年度のあり方検討委員会及びワーキンググループの検討内容等を踏まえ策定するものとする。

本計画の構成は次のとおりとする。

- |            |                        |
|------------|------------------------|
| (1) 展示計画   | 本施設の展示・体験に関する計画        |
| (2) 施設計画   | 本施設の施設面での機能と諸室構成等の計画   |
| (3) 事業計画   | 本施設で展開される各種事業の方針に関する計画 |
| (4) 管理運営計画 | 本施設の管理運営に関する計画         |

## II. 現状と課題

### 1. 現施設設計時の考え方及び現施設の課題

#### (1) 現施設設計時の考え方等

平成8年に開館した慶長使節船ミュージアムは、今から約400年前に慶長遣欧使節ら一行を乗せ、太平洋を往復したガレオン船「サン・ファン・パウティスタ号」の復元船を展示の核に、慶長遣欧使節の歴史や大航海時代の帆船・海洋文化を紹介する施設として整備された。牡鹿半島と太平洋を一望できる景勝地の高台にあり、イタリア風庭園の石巻市サン・ファン・パウティスタパークに隣接している。

建築施設は、地図上の等高線がデザイン化され、自然と共生した展望棟とドック棟が、丘陵地に組み込まれる形で設計された。展望棟は太平洋を横断した慶長遣欧使節の航海の疑似体験や慶長遣欧使節の歴史を学習できる空間となっている。

標高差30mのエスカレーターを降りると、谷間に囲まれ前面に海が開けたドック棟があり、時計回りのコースで東ウィングには帆船技術、中央には乗船できる復元木造船、西ウィングには大航海時代の帆船・海洋文化を紹介する展示物が設置された。

平成23年の東日本大震災での大津波により、ドック棟と復元船が大きな被害を受けて一時休館を余儀なくされたが、平成25年には再開館を果たすことができた。その後、船体の腐朽が著しく進行していることが判明したことから、平成28年3月から現在までドック棟及び復元船への立入りを禁止している。



図 開館当時の慶長使節船ミュージアム

◆現施設の諸室と機能

現施設の諸室（令和元年度時点）の持つ機能を整理した。

| 諸室                                   | 棟等             | 機能   |
|--------------------------------------|----------------|------|
| ・企画展示室<br>・慶長使節展示室                   | 展望棟            | 展示機能 |
| ・セミナールーム                             | 展望棟            | 学習機能 |
| ・シアタールーム<br>・ワークショップルーム<br>・展望塔からの眺望 | 展望棟            | 体験機能 |
| ・エントランス<br>・ロビー                      | 展望棟            | 交流機能 |
| ・ドック棟エントランス                          | ドック棟 ※震災後立入り禁止 |      |
| ・野外広場                                | エスカレーター棟       |      |
| ・サン・ファンショップ                          | 展望棟            | 物販機能 |
| ・トイレ                                 | 全て             | 便益機能 |
| ・事務室等 バックヤード                         | 全て             | 管理機能 |

|                                              |                   |      |
|----------------------------------------------|-------------------|------|
| ・帆船文化展示<br>・帆船技術展示                           | ドック棟（東日本大震災により流失） | 展示機能 |
| ・ライブラリー<br>・ジオラマ                             |                   | 学習機能 |
| ・マジックビジョンシアター<br>・コンピュータシミュレーション<br>・ワークショップ |                   | 体験機能 |



図 現在のサン・ファン館の諸室配置

## (2) 現施設の課題及び対応

現施設の活用状況から、主な課題を次のとおり4点抽出し、検討の方向性を整理した。

### ① 後継船を展示する施設としてのリニューアル

施設の展示の中核であった復元船の解体に伴い、ドック棟全体の展示を含めた機能の在り方の見直しや、利用者の安全確保を行う必要がある。

また、復元船が係留されているドックを、現状の数メートルの深さのある施設として活用するかなど、利用者の安全を十分に配慮した転用・活用方法を検討する。

### ② 必要スペースの確保

現施設の無料ゾーンには、団体客の集合場所やレクチャーが受けられる場所のほか、飲食可能なスペースなどが配置されていないため、有料ゾーンのセミナールームで代替しており、運用に当たっては不便な面がある。また、地域の方々の日常利用にも配慮するなど、諸室の再配置の際にはこのようなスペースの確保を検討する。

### ③ 施設内の快適な空間化への対応

現施設は、自然の地形に沿った形で設計されており、館内移動に階段が設置されている。また、エスカレーター棟中段の野外広場やドック棟は、階段や段差が多い状況である。改修時には、段差の解消や歩きやすい床素材の採用等、施設利用における快適化を可能な範囲で積極的に行うことを検討するとともに、ユニバーサルデザインの観点も取り入れ、より多くの方が利用しやすい、柔軟な施設づくりを検討する。

また、復元船を係留しているドック周辺や中段野外広場を含む外構部分、管理施設等が老朽化していること、ガラス張りの壁面が多い建築のため、日照による熱の吸収・放射により適度な室温を保ちにくいこと等、改修時に解消できるものは積極的に解消していくよう検討する。

### ④ 本施設以外の関連施設との連携

現施設の周辺には、関連施設として石巻市サン・ファン・バウティスタパークがあるが、諸室・機能のすみ分けや一体施設として連携した取組が不足しているので、施設の改修に伴って、更なる連携の方向性を検討する。

また、本施設は、陸路での牡鹿半島への入口部に位置するが、立ち寄る観光ルートや受入れ環境が整っていない状況である。施設の改修に伴い、牡鹿半島回遊の拠点となるよう検討する。

### (3) 今後想定される課題及び対応

ミュージアムの中心的展示物である復元船の解体後に課題となる「原寸大の迫力や規模感の補完」及び「解体後の部材の再利用」への対応として次の内容を整理した。

取組①：中央部肋骨など 27 の部位展示候補を中心に，復元船部材の再利用や部位の新規制作により原寸大が持つ迫力が伝わるような部位展示

※ 実施に当たっては解体手順・工法，復元船の状況などの諸条件を整理の上，可能な限り実現できるよう検討を進める。

取組②：復元船のデジタルアーカイブデータ（座標・色彩など）を活用したデジタルコンテンツの制作

取組③：展示物として活用できなかった復元船部材を，記念品やグッズ製作の材料として再利用



## 2. 対象地の条件及び周辺との関係

### (1) 対象地の条件

対象地における各種規制等を含む基本的な地理的条件を次のとおり整理した。

#### ●住所

〒986-2135

宮城県石巻市渡波字大森 30 番地 2



#### ●施設概要

|               |                          |              |                         |
|---------------|--------------------------|--------------|-------------------------|
| 敷地面積          | 13,574.78 m <sup>2</sup> | 構造           | 鉄筋コンクリート造<br>(一部鉄骨, 木造) |
| 建築面積          | 4,472.06 m <sup>2</sup>  |              |                         |
| 延床面積          | 4,476.68 m <sup>2</sup>  |              |                         |
| 展望棟 (延床)      | 2,937.02 m <sup>2</sup>  | ドック棟 (延床)    | 941.90 m <sup>2</sup>   |
| エスカレーター棟 (延床) | 529.52 m <sup>2</sup>    | 屋外棟 (ドック倉庫等) | 68.24 m <sup>2</sup>    |

#### ●区分

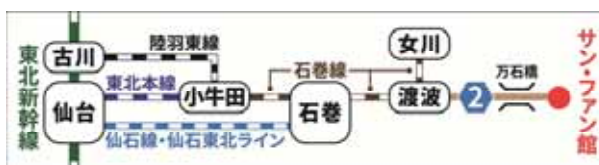
宮城県 都市計画区域内 (市街化調整区域)

渡波漁港区域内 (海岸林等の一部)

#### ●アクセス (令和2年3月1日現在)

##### 【電車】

- ・「JR 渡波駅」から徒歩約 25 分又はタクシー約 5 分



##### 【自動車】

- ・石巻河南 IC から約 12.5km 又は石巻女川 IC から約 13km



## (2) 周辺施設等との関係

JR石巻駅と現施設の間には石ノ森萬画館やかかわまちエリアの「いしのまき元気いちば」がある。そのほか、経路上ではないが河北地区には道の駅「上品の郷」等が位置しており、また、雄勝地区には（仮称）雄勝地区観光物産交流施設と雄勝硯伝統産業会館が令和2年4月にオープンする予定である。

慶長使節船ミュージアムがある牡鹿半島は、東に金華山、西に網地島や田代島が位置している。また、鮎川地区には「ホエールタウンおしか」が新設され、令和元年10月にオープンした「観光物産交流施設 Cottu（コッツ）」及び「牡鹿半島ビジターセンター」のほか、令和2年春には「おしかホエールランド」がオープンする予定である。

牡鹿半島は国が定める「三陸復興国立公園」の一部に指定されるとともに、「みちのく潮風トレイル」や「エコツアーリズム」等の取組も行われており、来訪者増加のための連携の可能性もある。そのほか、石巻圏ではエリア内の観光スポット同士が連携し、サイクルツアーリズムの推進に向けた取組も行われている。

隣接する石巻市サン・ファン・バウティスタパークは、近隣の小学校にオリエンテーリングの場所として開放しており、そのほかにも各種イベントが開催されている。



図 サン・ファン館とその周辺

## III. 展示計画

---

### 1. 基本的考え方

あり方検討委員会での意見等を踏まえて策定した「慶長使節船ミュージアムの今後の整備方針」に準拠するとともに、ワーキンググループで頂いた意見等を参考に計画する。具体的な要点としては「観光」と「教育」の両面に対応する展示を計画する。

#### ○「観光」への対応

慶長使節船ミュージアムを目的地として選んでもらうための強いテーマ性を発信することが必要と捉えた上で、仙台藩・宮城県における牡鹿半島という地域の個性を明らかにするとともに半島全域や石巻地域等への広域的な観光のストーリー性を視野に入れた展示構成を図る。

#### ○「教育」への対応

修学旅行や社会科見学などの学校団体利用や、家族や仲間成長に応じて気軽に訪れることができ、多様な学びの機会を提供できる展示構成を図る。

### (1) 展示コンセプト

展示リニューアルの個別方針及び「観光」と「教育」の両面に対応する観点から次のコンセプトを設定する。

#### ① 県域全体の観光体験ストーリーに沿う仙台藩との関わりを強化した展示

慶長遣欧使節への理解や楽しみ方を増幅できる伊達政宗公の藩政との関わりや、当時の石巻地方の変遷などを加え、県域全体を巡る観光体験の一翼を担う。

#### ② 東日本大震災からの復興を語る展示

リニューアルの要因の一つとなった東日本大震災と、そこからの復旧・復興の過程も展示対象として重視。被災内容や復旧に向けたカナダからの木材提供など、震災後の取組を紹介する。

#### ③ 牡鹿半島の入口部にある立地特性を活かした展示

牡鹿半島への動線上の出入口に位置する特性を活用し、鮎川・雄勝地区、女川町等の観光拠点や半島全体の観光アクティビティに人々をつなぐ展示を行う。

#### ④ 帆船・海洋文化、造船技術を扱う展示

サン・ファン・パウティスタ号の木造帆船という特徴を活用した帆船・海洋文化、造船技術に関する体験型展示を重視する。

## 2. 展示テーマ

### (1) 改修プランの全体像

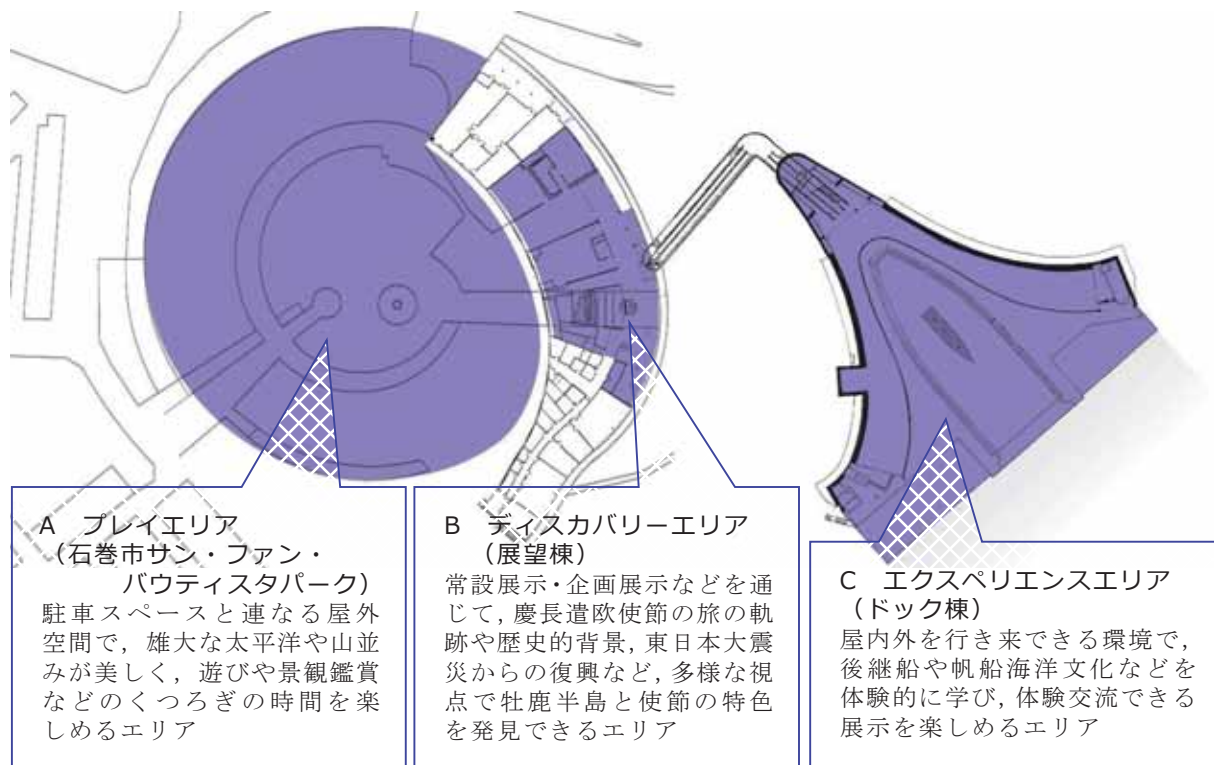
# 慶長遣欧使節と牡鹿半島の風土の関わりを 発見・体験する

## 陽光と潮風のミュージアムへ

従来の展示は、慶長遣欧使節の偉業を中軸に構成することで顧客満足度を高めてきたが、歴史への興味・関心が低い人や日本史に不案内な外国人への対応には限界があった。今回のリニューアルで期待される誘客性強化を踏まえた展示には、多様な来館者を迎える工夫は不可欠である。

そのため、展示内容では慶長遣欧使節に加えて牡鹿半島を通して知る宮城の風土や自然の魅力を積極的に取り上げるとともに、展示体験においても見るだけで終わらない新たな「知」を発見する喜びや、牡鹿半島ならではの自然特性の体験、ここでしかできない手法を取り入れ、多くの人々が訪れたい展示を計画する。

こうしたリニューアルの方向性を改修プランに明確化することとし、展望棟は慶長遣欧使節・牡鹿半島を核とした新たな発見性に満ちたディスカバリーエリア、ドック棟は体験的な学びと遊びを特色としたエクスペリエンスエリアと位置付ける。また、駐車場からのアクセスも比較的容易で広々とした石巻市サン・ファン・パウティスタパークは何度も気軽に遊びに訪れ、のんびりと時間を過ごせるプレイエリアと捉える。



※「Aプレイエリア」は石巻市所管のため、位置付けの合意は別途行う。

### 3. 展示シナリオ

#### **ポイント1** 牡鹿半島の風土の特質紹介で来館者を迎える

「牡鹿半島の風土」を展示の核の一つに明確に位置付け、入退館時に全ての人が接することができるエントランス部に配置する。

#### **ポイント2** 類いまれなビュースポットを整備・開放して名所化する

誘客性を高める工夫の一つとして、「ここだけ」で体験できる事柄を鮮明化するため、太平洋を見渡すことができ、壮大で美しい夕陽を展望できる空間を設ける。

#### **ポイント3** 慶長遣欧使節を仙台藩や世界情勢と絡めて解き明かす

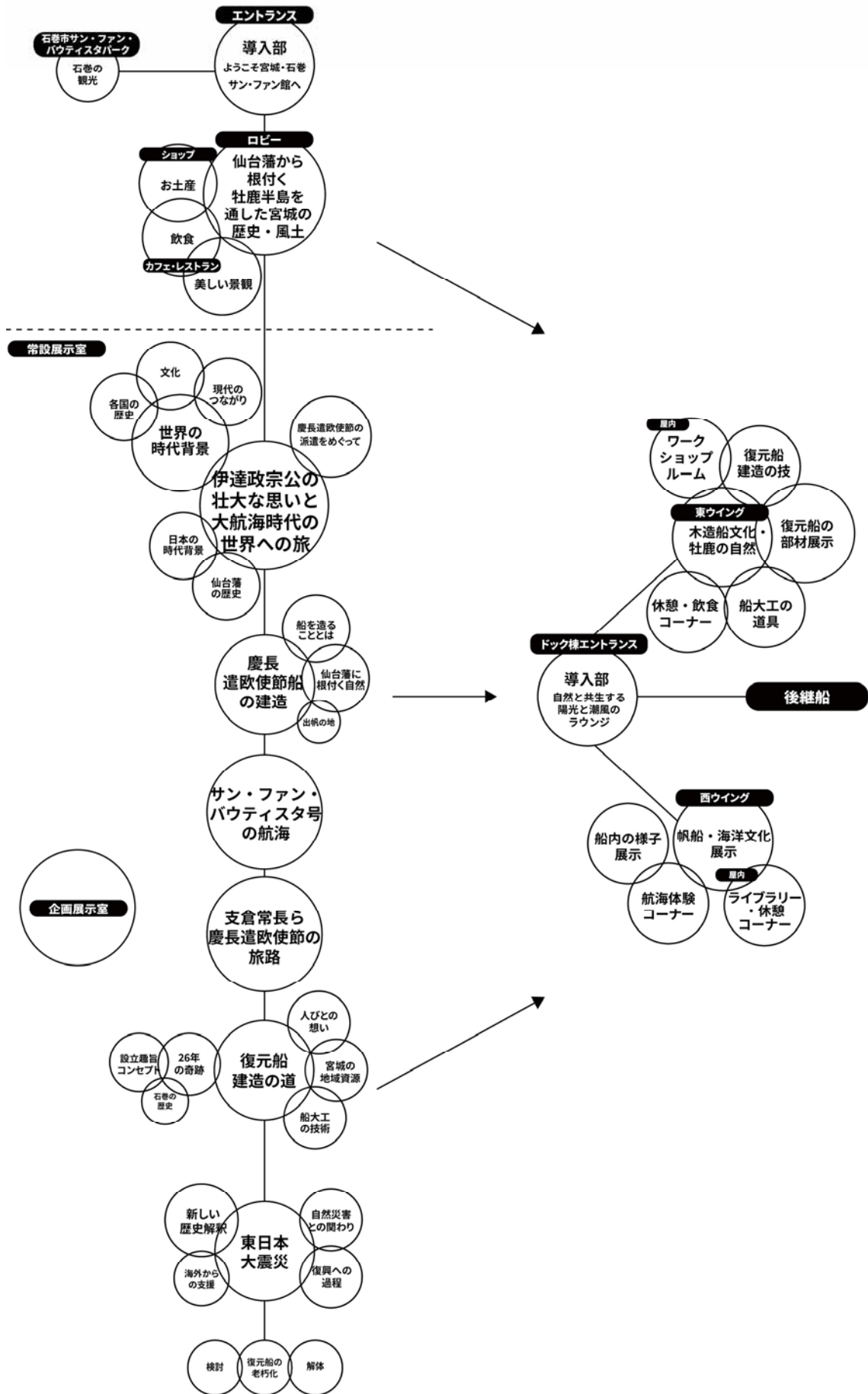
慶長遣欧使節の偉業を深く分かりやすく理解できる工夫を取り入れ、伊達政宗公による仙台藩政での位置付けや大航海時代にあった世界情勢の視点を加味した展示とする。

#### **ポイント4** 東日本大震災を契機とした新しい航海の物語を紹介する

東日本大震災以降の館内の状況及び震災からの復旧・復興の状況を新たな展示構成に盛り込む。

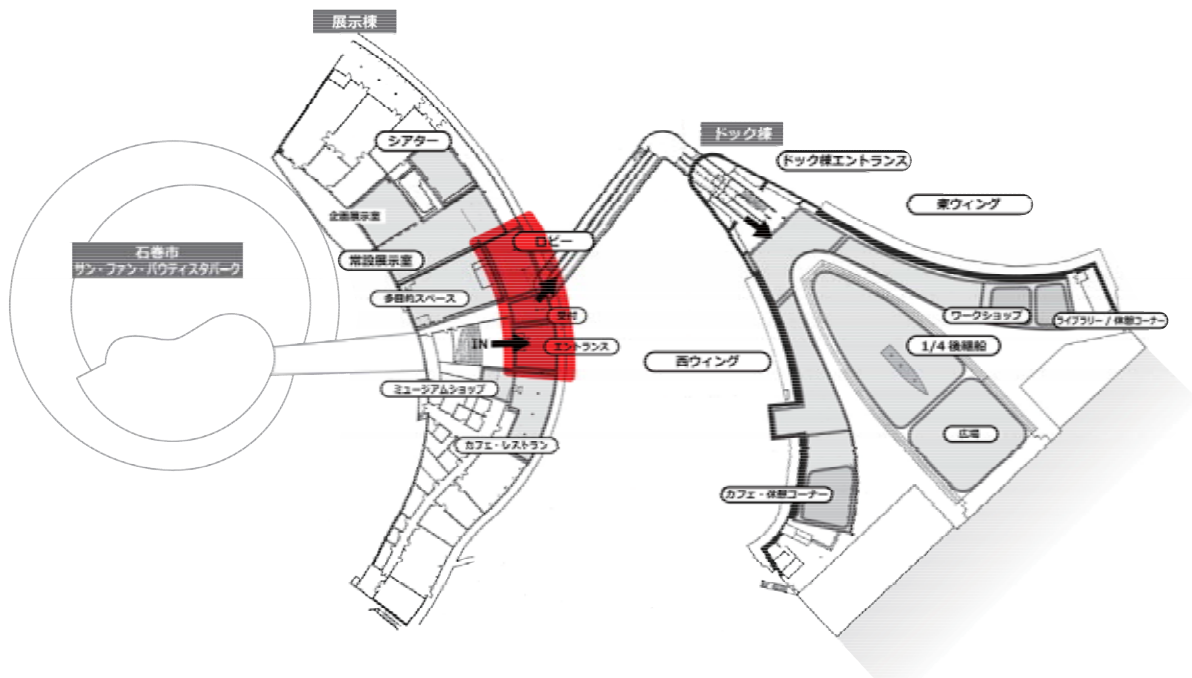
#### **ポイント5** 後継船をシンボルとした帆船・海洋文化体験エリアを創出する

サン・ファン・パウティスタ号及び後継船を基軸に、世界の帆船をはじめとする帆船・海洋文化を体感できる展示とする。



## 4. 展示展開

### (1) エントランス/ロビー



#### ○導入部

来館者を迎え入れる空間で、来館者の属性に応じた館内誘導サービスを心がけるとともに、県内各地で催されている観光イベントなど、近隣地域・観光スポットの紹介・案内を行う。また、目の前に広がる壮大な太平洋や美しい夕日を見渡すことができるスペースを設ける。

#### ○仙台藩から根付く牡鹿半島を通した宮城の歴史・風土

牡鹿半島及び石巻・女川地域の歴史・風土と、その特徴を色濃く反映した物産や観光体験アクティビティなどを紹介する。



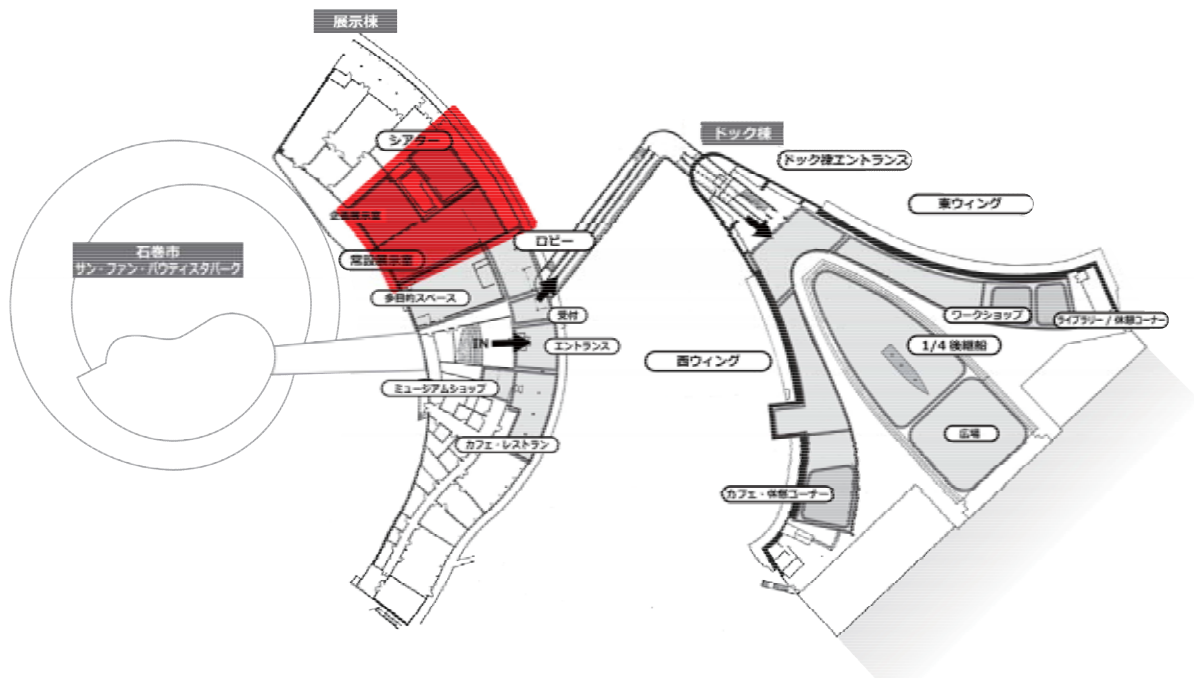
エントランスイメージ



ロビーイメージ



## (2) 常設展示室/シアター



### ○伊達政宗公の壮大な思いと大航海時代の世界への夢

慶長遣欧使節が出帆した背景を深く知るために、伊達政宗公が統治していた17世紀初頭の仙台藩の状況や、大航海時代にあった世界の国々の動きなどの状況を伝える。

### ○慶長遣欧使節船の建造

当時の仙台藩において巨大な木造船を造り得たことに注目する。材木や造船技術などを牡鹿半島の自然特性と絡めて解説する。

### ○サン・ファン・パウティスタ号の航海

3か月に及ぶ航海の軌跡をたどる。寄港地と出来事を詳しく伝えるとともに航海術にも目を向け、帆船・海洋文化をテーマとするミュージアムの特徴的体験を提供する。

### ○支倉常長ら慶長遣欧使節の旅路

仙台藩を出帆してから7年に及ぶ慶長遣欧使節の足跡をたどる。

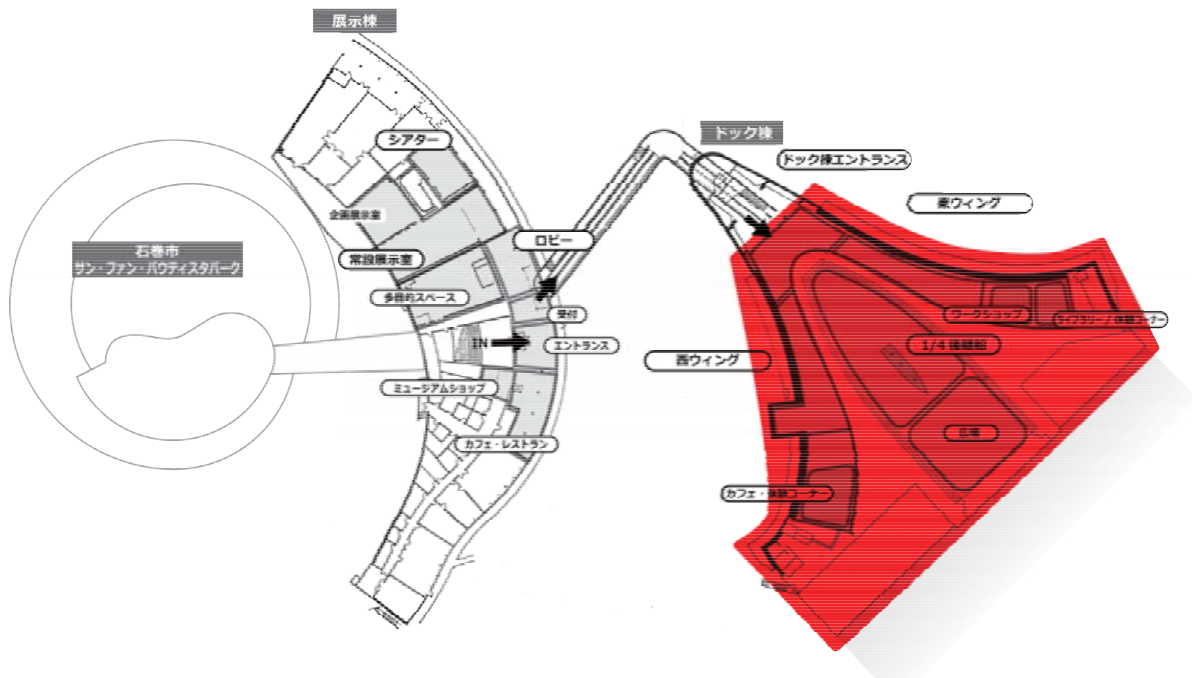
### ○復元船建造の道

現代の船大工による復元船建造の物語に着目するとともに、多くの方々から寄せられた寄附金など、復元船建造への熱い思いを紹介する。

### ○東日本大震災

東日本大震災による慶長使節船ミュージアムの被災状況とその後の復旧・復興過程を紹介する。海外からの支援や、慶長大地震からの復興と遣欧使節の関わりといった新たな歴史解釈などと重ね合わせながら多様なその後を紹介する。

### (3) ドック棟エントランス/東ウィング/西ウィング



#### ○導入部

エスカレーター棟とつながるドック棟の出入口として、ドック棟で学び楽しめる内容を紹介する。また、陽光差し込み、潮風を感じられるラウンジ空間としても活用する。

#### ○帆船・海洋文化（出帆後について）

体験的な形で操船術、航海術に触れ、技術的な面から帆船を探るほか、船内での生活、大航海の交流が生んだ様々な文化などに触れる展示を用意する。また、飲食可能なスペースも設けることを想定する。

#### ○木造船文化・牡鹿の自然（建造から完成まで）

慶長遣欧使節船が造られた場所としての特性に注目し、「造船」に関わる展示を行う。船大工の道具や復元船の部材を展示するとともに、ワークショップの実施なども想定する。

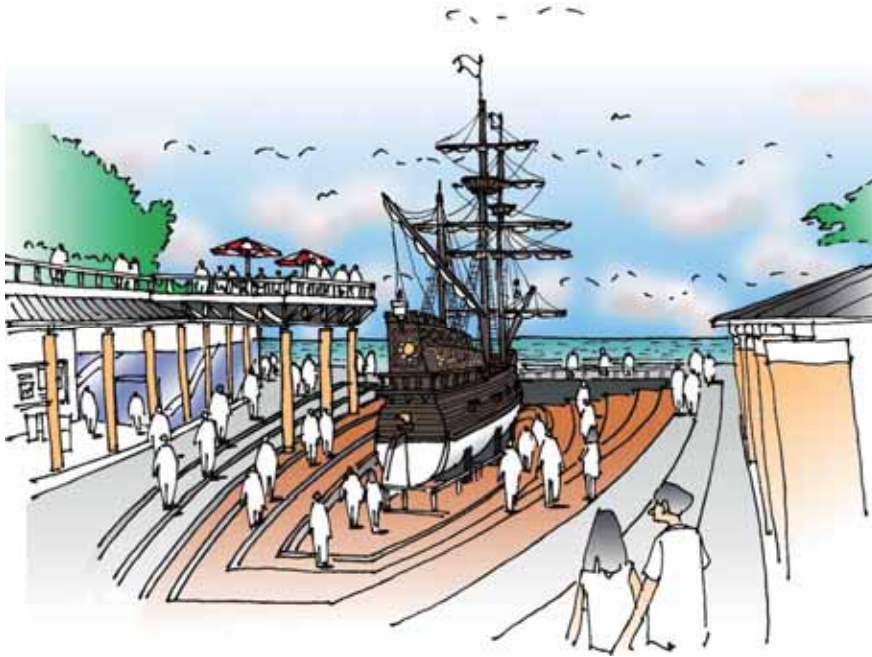
#### ○後継船（仙台藩の造船技術と帆船文化のシンボル）

新たに復元船の後継船（縮尺4分の1、FRP製）を制作し、ドック棟の中心部に展示する。意匠を忠実に再現するだけでなく、イベント時に展帆できる機能などを持たせることを検討する。

周囲には、甲板を見下ろせ、帆にも近づける展望デッキを設置し、全方位から船体を確認できるようにする。

#### ○復元船の部材

復元船に用いられている部材や船内展示の一部を保存活用し、復元船の実際の大きさだけでなく、船内での生活や航海の様子を想像・体感する展示を行う。



ドック棟イメージ



後継船(展帆時)イメージ

復元船部材等の展示・方法の候補については次のとおり。

なお、部材等の状況を確認しながら下表以外の部材においても再利用について積極的に検討する。

| 番号 | 使用部位の案           | 写真/イメージ                                                                             | 体験                                                                           | 展示方法・課題点                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 原寸のマスト           |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>はしごで登る</li> <li>イベント時に帆を張る</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>中央のメインマストはランドマークになることから、設置場所の検討が必要。</li> <li>はしごで登る、帆を張るといった体験は、週末や祝日などにイベントと組み合わせて行うなど検討が必要。</li> <li>屋外設置のため維持管理にコストがかかるといった課題のほか、体験アイテムとする場合は、マスト固定（鉄骨組や地面に埋め込む）や落下防止のワイヤー、安全帯の設置、地面にマットを敷くなどの対策検討が必要。</li> </ul> |
| 2  | 原寸の船長室（グレートキャビン） |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>原寸を見て体感する</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>人物造形が劣化しており、再度人物造形を制作する必要がある。</li> <li>環境（空間）と人物造形をつくり、テーブルやその上の地図やランプ等を再利用し、船長室を再現する。</li> <li>※展望棟もしくはドック棟外に展示</li> </ul>                                                                                          |
| 3  | かまど（ギャレー）        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>原寸を見て体感する</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>船首楼内下部中央付近には厨房があったという想定のため、再利用するか再度検討が必要と考えられる。</li> <li>環境（空間）をつくり、かまどや鍋等を再利用し、当時の厨房の様子を再現する。</li> <li>※展望棟もしくはドック棟外に展示</li> </ul>                                                                                  |
| 4  | 巻き上げ機（キャプスタン）    |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>巻き上げ機を動かす</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>原寸では巻き上げ機自体を動かす構造になっていないため、別途体験アイテムとして制作する必要がある。</li> <li>いかり・ヤード（帆桁）等と連動させた動きを見せるために、ミニチュア模型を新規制作する。</li> <li>※展望棟もしくはドック棟外に展示</li> </ul>                                                                           |
| 5  | 中央部肋骨            |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>帆船の断面構造、大きさを見て体感する</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>津波による損傷や腐朽により劣化しているため、原寸を使用することが難しい。</li> <li>船の構造が分かりやすいため、新規制作する。</li> <li>※展望棟もしくはドック棟外に展示</li> </ul>                                                                                                             |

| 番号 | 使用部位の案                        | 写真/イメージ                                                                             | 体験                          | 展示方法・課題点                                                                 |
|----|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 6  | ビレイピン・船鐘                      |    | ・鐘を鳴らす                      | ・船鐘の周りも再利用もしくは新規制作し、鐘を鳴らす体験をする。<br>※ドック棟外に展示                             |
| 7  | デッドアイ                         |    | ・原寸を見て<br>大きさを体感する          | ・実物と解説グラフィック（帆船のマストを支える役割などを説明）のセットで展示する。<br>※ドック棟外に展示                   |
| 8  | フィギアヘッド                       |    | ・原寸を見て<br>大きさを体感する          | ・ドック棟外に、象徴的に展示する。                                                        |
| 9  | 赤獅子・黒獅子<br>※当時の船には存在しないアイテム   |    | ・原寸を見て<br>大きさを体感する          | ・フィギアヘッドと一緒に展示する。<br>※ドック棟外に展示                                           |
| 10 | 船名プレート<br>※当時の船には存在しないアイテム    |    | ・原寸を見て<br>大きさを体感する          | ・石巻市プレートと一緒に展示する。<br>※ドック棟外に展示                                           |
| 11 | 石巻市プレート<br>※当時の船には存在しないアイテム   |   | ・原寸を見て<br>大きさを体感する          | ・船名プレートと一緒に展示する。<br>※ドック棟に展示                                             |
| 12 | 鶏造形                           |  | ・航海生活を体感する                  | ・船に持ち込まれた食糧を新規制作（造形）し、その造形と一緒に再現展示をする。<br>※展望棟もしくはドック棟外に展示               |
| 13 | 船尾ランプ                         |  | ・原寸を見て<br>大きさを体感する          | ・九曜紋と一緒に象徴的に展示する。<br>※ドック棟外に展示                                           |
| 14 | 船尾フィギア                        |  | ・原寸を見て<br>大きさを体感する          | ・フィギアヘッドと一緒に展示する。                                                        |
| 15 | 九曜紋                           |  | ・原寸を見て<br>大きさを体感する          | ・船尾ランプと一緒に象徴的に展示する。<br>※ドック棟外に展示                                         |
| 16 | 船倉①                           |  | ・航海生活を体感する                  | ・中央部助骨の原寸再現時に、再利用する。<br>※ドック棟外に展示                                        |
| 17 | 船側材（杉）<br>肋骨材（松）<br>船側材の部分カット |  | ・帆船の断面構造、<br>大きさを見て<br>体感する | ・津波により劣化しているため、原寸を使用することが難しい。<br>・新規制作し、中央部助骨の原寸再現と一緒に展示する。<br>※ドック棟外に展示 |
| 18 | 大砲（四輪）<br>造形                  |  | ・原寸を見て<br>大きさを体感する          | ・塗装剥がれがあるため補修が必要。<br>※ドック棟外に展示                                           |

| 番号 | 使用部位の案                            | 写真/イメージ                                                                             | 体験                 | 展示方法・課題点                                                                |
|----|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 19 | 帆布                                |    | ・原寸を見て<br>大きさを体感する | ・復元船内の展示のよつに、帆布の修繕を行っている様子的人物造形（新規制作）を置き、再現展示する。<br>※展望棟もしくはドック棟外に展示    |
| 20 | ビルジポンプ                            |    | ・原寸を見て<br>大きさを体感する | ・ビルジポンプの役割を伝えるため、排水作業を行っている様子的人物造形（新規制作）を置き、再現展示する。<br>※展望棟もしくはドック棟外に展示 |
| 21 | 鳥かご                               |    | ・航海生活を体感する         | ・鳥造形（12番）と一緒に展示する。<br>※展望棟もしくはドック棟外に展示                                  |
| 22 | ビスカイノの部屋<br>(ベッドと<br>肖像画、<br>室内灯) |    | ・航海生活を体感する         | ・環境（空間）をつくり、ベッドや室内灯、肖像画等を再利用し、ビスカイノの部屋を再現展示する。<br>※展望棟もしくはドック棟外に展示      |
| 23 | 羅針盤・地図                            |    | ・方位体験をする           | ・実物を展示するとともに、別途羅針盤を使った方位体験アイテムを新規制作する。<br>※展望棟に展示                       |
| 24 | ライジングビット                          |   | ・原寸を見て<br>大きさを体感する | ・ドック棟外に展示する。                                                            |
| 25 | 銃器                                |  | ・航海生活を体感する         | ・展望棟もしくはドック棟外に展示する。                                                     |
| 26 | 船員が休憩して<br>食事する場面                 |  | ・航海生活を体感する         | ・展望棟もしくはドック棟外に展示する。                                                     |
| 27 | 寄附者銘板                             |  | -                  | ・展望棟もしくはドック棟外に展示する。                                                     |

## 5. 展示構成リスト

展示棟・ドック棟全体に展示シナリオで示した展示内容をリストアップし、展示什器・設備面で留意すべき仕様を整理した。

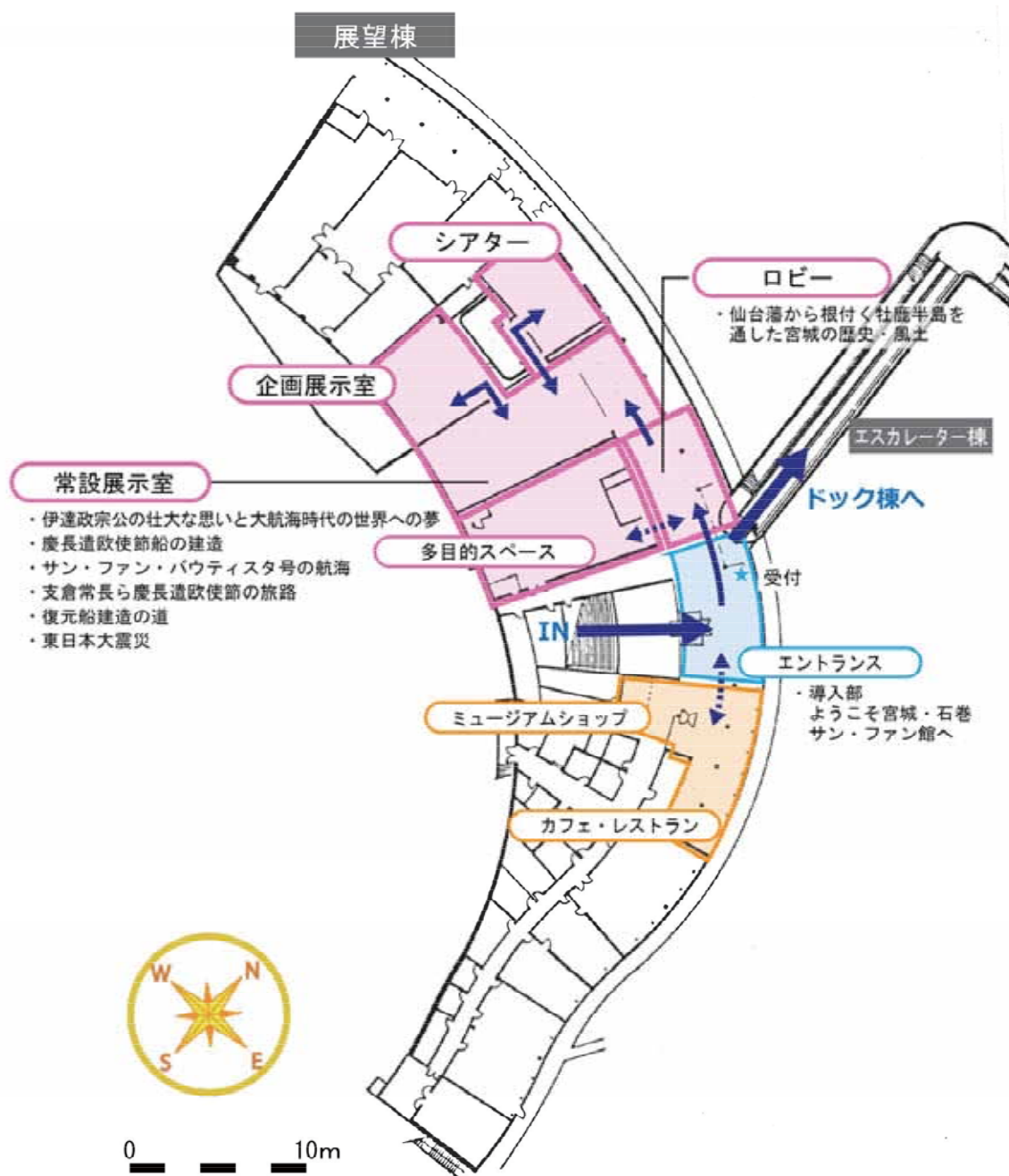
| no | 項目                       | 展示内容                                                                                                                            | 詳細例                                                                                                                   |
|----|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 展望棟導入部                   | 来館者を迎え入れる空間で、来館者の属性に応じた館内誘導サービスを心がけるとともに、県内各地で催されている観光イベントなど、近隣地域・観光スポットの紹介・案内を行う。<br>また、目の前に広がる壮大な太平洋や美しい夕日を見渡すことができるスペースを設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サン・ファン館案内</li> <li>・宮城観光案内</li> </ul>                                         |
| 2  | 仙台藩から根付く牡鹿半島を通した宮城の歴史・風土 | 牡鹿半島及び石巻・女川地域の歴史・風土と、その特徴を色濃く反映した物産や観光体験アクティビティなどを紹介する。                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・景観ラウンジ</li> <li>・カフェ</li> <li>・ショップ</li> </ul>                                |
| 3  | 伊達政宗公の壮大な思いと大航海時代の世界への夢  | 慶長遣欧使節が出帆した背景を深く知るために、伊達政宗公が統治していた17世紀初頭の仙台藩の状況や、大航海時代にあった世界の国々の動きなどの状況を伝える。                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の時代背景</li> <li>・日本の時代背景</li> <li>・慶長遣欧使節の派遣をめぐる</li> <li>・仙台藩の歴史</li> </ul> |
| 4  | 慶長遣欧使節船の建造               | 当時の仙台藩において巨大な木造船を造り得たことに注目する。材木や造船技術などを牡鹿半島の自然特性と絡めて解説する。                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・船を造ることとは</li> <li>・仙台藩に根づく自然</li> <li>・出向の地</li> </ul>                        |
| 5  | サン・ファン・パウティスタ号の航海        | 3か月に及ぶ航海の軌跡をたどる。寄港地と出来事を詳しく伝えるとともに航海術にも目を向け、帆船・海洋文化をテーマとするミュージアムの特徴的体験を提供する。                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・航海術</li> </ul>                                                                |
| 6  | 支倉常長ら慶長遣欧使節の旅路           | 仙台藩を出帆してから7年に及ぶ慶長遣欧使節の足跡をたどる。                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・慶長遣欧使節の足跡</li> </ul>                                                          |
| 7  | 復元船建造の道                  | 現代の船大工による復元船建造の物語に着目するとともに、多くの方々から寄せられた寄附金など、復元船建造への熱い思いを紹介する。                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・船大工の技術</li> <li>・26年の軌跡</li> <li>・人々の思い</li> </ul>                            |
| 8  | 東日本大震災                   | 東日本大震災による慶長使節船ミュージアムの被災状況とその後の復旧・復興過程を紹介する。海外からの支援や、慶長大地震からの復興と遣欧使節の関わりといった新たな歴史解釈などと重ね合わせながら多様なその後を紹介する。                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害との関わり</li> <li>・復興への過程</li> <li>・海外からの支援</li> <li>・新しい歴史解釈</li> </ul>     |

| no | 項目                      | 展示内容                                                                                                                                    | 詳細例                                           |
|----|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 9  | ドック棟導入部                 | エスカレーター棟とつながるドック棟の出入口として、ドック棟で学び楽しめる内容を紹介する。また、陽光差し込み、潮風を感じられるラウンジ空間としても活用する。                                                           | ・ 陽光と潮風のラウンジ                                  |
| 10 | 帆船・海洋文化（出帆後について）        | 体験的な形で操船術、航海術に触れ、技術的な面から帆船を探るほか、船内での生活、大航海の交流が生んだ様々な文化などに触れる展示を用意する。また、飲食可能なスペースも設けることを想定する。                                            | ・ 航海体験<br>・ 船内の様子<br>・ カフェライブラリー              |
| 11 | 木造船文化・牡鹿の自然（建造から完成まで）   | 慶長遣欧使節船が造られた場所としての特性に注目し、「造船」に関わる展示を行う。船大工の道具や復元船の部材を展示するとともに、ワークショップの実施なども想定する。                                                        | ・ 復元船建造の技<br>・ 復元船現物<br>・ 船大工<br>・ ワークショップルーム |
| 12 | 後継船（仙台藩の造船技術と帆船文化のシンボル） | 新たに復元船の後継船（縮尺4分の1、FRP製）を制作し、ドック棟の中心部に展示する。意匠を忠実に再現するだけでなく、イベント時に展帆できる機能などを持たせることを検討する。周囲には、甲板を見下ろせ、帆にも近づける展望デッキを設置し、全方位から船体を確認できるようにする。 |                                               |
| 13 | 復元船の部材                  | 復元船に用いられている部材や船内展示の一部を保存活用し、復元船の実際の大きさだけでなく、船内での生活や航海の様子を想像・体感する展示を行う。                                                                  |                                               |

## 6. 配置・動線

展望棟・ドック棟全体に展示シナリオで示した展示内容を配置し、基本的な動線を設定した。

平面プランで表す。





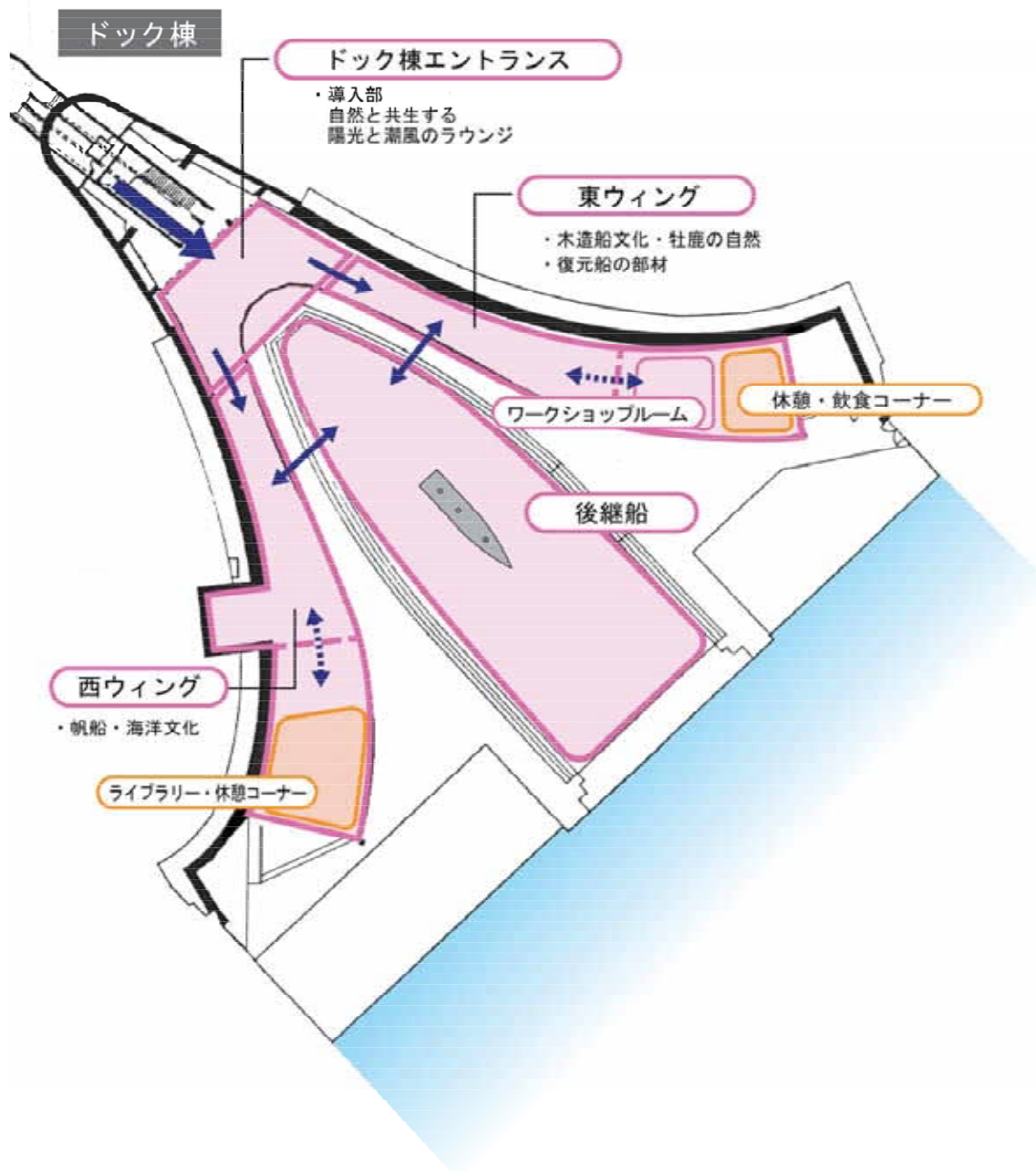


図 平面プランイメージ  
 ※変更の可能性がある。

## IV. 施設計画

---

### 1. 基本的考え方

これまでの検討経緯等を踏まえて、本施設の基本理念や立地等の条件から、施設の目指す姿を定め、(1)施設の考え方、(2)空間構成の2つの観点から施設改修の考え方を整理した。

#### (1) 施設の考え方

施設の課題や、「慶長使節船ミュージアムの今後の整備方針」を受けて、施設の考え方を以下の4つとする。

##### ① 多くの人が訪れたい魅力ある施設とする

- ・国内外の観光客や地域の小中学生が、体験を通じて楽しく学べるようにする。
- ・集客の目玉となる話題性のある取組を実施する。
- ・太平洋や牡鹿半島の自然地形等を身近に感じられるようにする。

##### ② 地域の方々も含めた利用者が滞在しやすい施設とする

- ・地域の憩いの場となるようなスペースを確保する。
- ・毎日来ても飽きない、通えるような工夫・取組を実施する。

##### ③ 誰もが利用しやすい施設とする

- ・利用者が安心して安全に利用できるようにする。
- ・老朽化部分を解消し、利用者に快適な空間を提供する。
- ・改修に伴い、光熱費・電気代等が低減できる工夫を可能な範囲で行う。

##### ④ 関連・周辺施設と連携した回遊性を高めた施設とする

- ・石巻市サン・ファン・バウティスタパークとの機能のすみ分けをし、往来を促す。
- ・牡鹿半島の入口として、周辺の情報を提供できる場とする。
- ・石巻市中心部や観光拠点との連携ができるようにする。

(2) 空間構成

① 諸室と想定規模

それぞれの諸室と規模について、以下に内容を記載する。

|          | 諸室                | ゾーン  | 規模                    |
|----------|-------------------|------|-----------------------|
| 展望棟      | 常設展示室             | 展示体験 | 約 270 m <sup>2</sup>  |
|          | 企画展示室             |      | 約 145 m <sup>2</sup>  |
|          | シアタールーム           |      | 約 120 m <sup>2</sup>  |
|          | セミナールーム           |      | 約 230 m <sup>2</sup>  |
|          | ロビー               | 案内誘導 | 約 120 m <sup>2</sup>  |
|          | 受付                |      | エントランス内一部             |
|          | エントランス            |      | 約 160 m <sup>2</sup>  |
|          | ミュージアムショップ        | 休息購買 | 約 18 m <sup>2</sup>   |
|          | カフェ・レストラン         |      | 約 180 m <sup>2</sup>  |
|          | トイレ               |      | 約 104 m <sup>2</sup>  |
|          | 事務所・倉庫・機械室等       | 管理運営 | 約 1590 m <sup>2</sup> |
| 合計       |                   |      | 2,937 m <sup>2</sup>  |
| ドック棟     | 展示空間（東ウイング、西ウイング） | 展示体験 | 約 556 m <sup>2</sup>  |
|          | 後継船               |      | —                     |
|          | ワークショップスペース       |      | 約 90 m <sup>2</sup>   |
|          | ライブラリー／休憩コーナー     | 休息購買 | 約 185 m <sup>2</sup>  |
|          | 休憩コーナー            |      | 約 110 m <sup>2</sup>  |
| 合計       |                   |      | 941 m <sup>2</sup>    |
| エスカレーター棟 | ドック棟エントランス        | 展示空間 | 約 220 m <sup>2</sup>  |
|          | トイレ               | 休息購買 | 約 45 m <sup>2</sup>   |
|          | エスカレーター           | 管理運営 | 約 265 m <sup>2</sup>  |
| 合計       |                   |      | 530 m <sup>2</sup>    |
| 屋外棟      | ドック倉庫，外部トイレ       | 管理運営 | 約 69 m <sup>2</sup>   |
| 合計       |                   |      | 69 m <sup>2</sup>     |
| 延床面積合計   |                   |      | 4,477 m <sup>2</sup>  |

## ② 諸室構成と配置のイメージ (平面計画)

それぞれの諸室の配置や動線について、内容を以下のとおり計画する。





視点①  
パーク⇒展望棟屋上  
海の景色を眺める

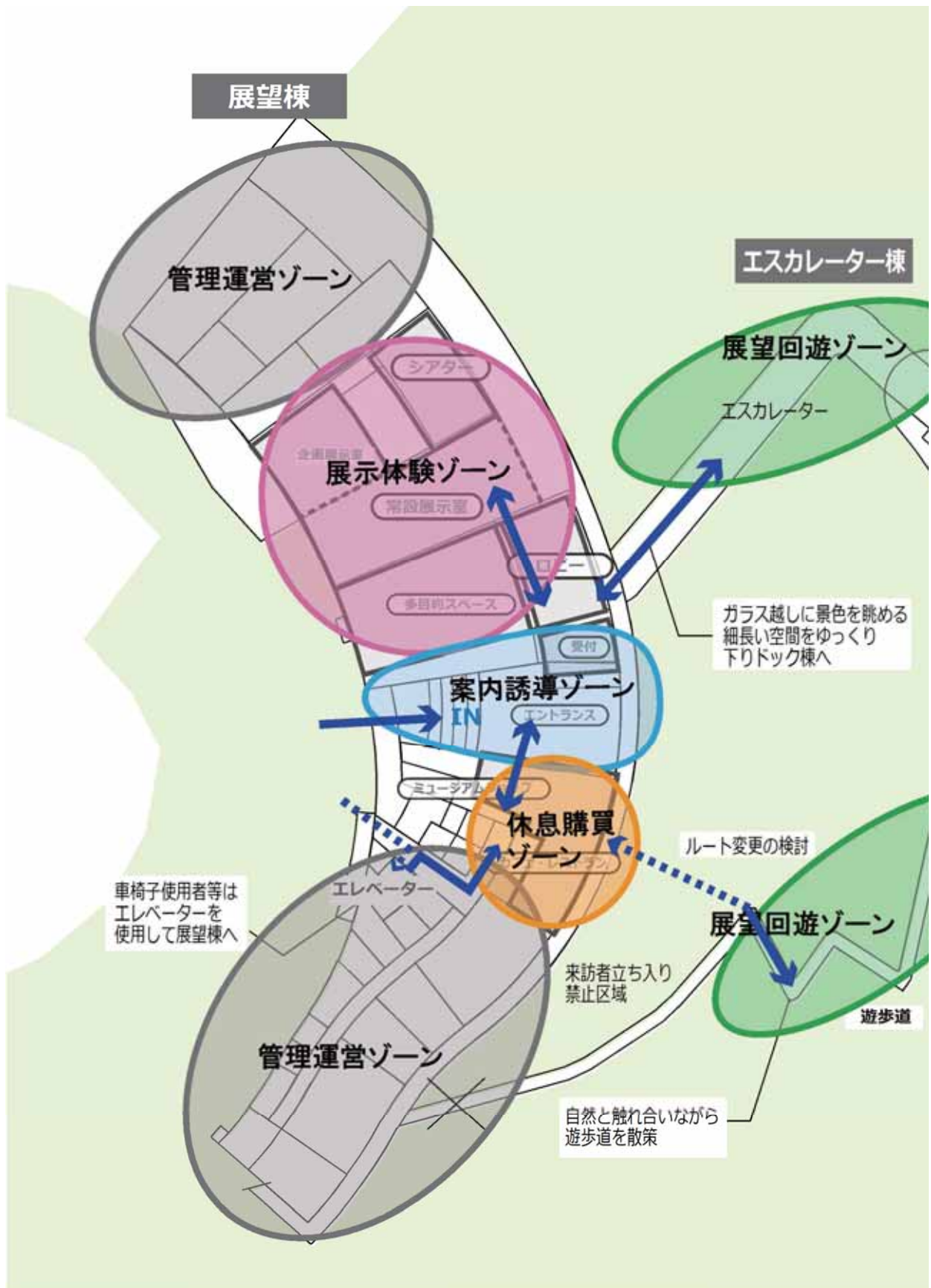
視点②、③、⑥  
展望棟⇔ドック棟  
後継船と太平洋を眺める

視点④  
エスカレーター中階







後継船越しに大海原  
が見える

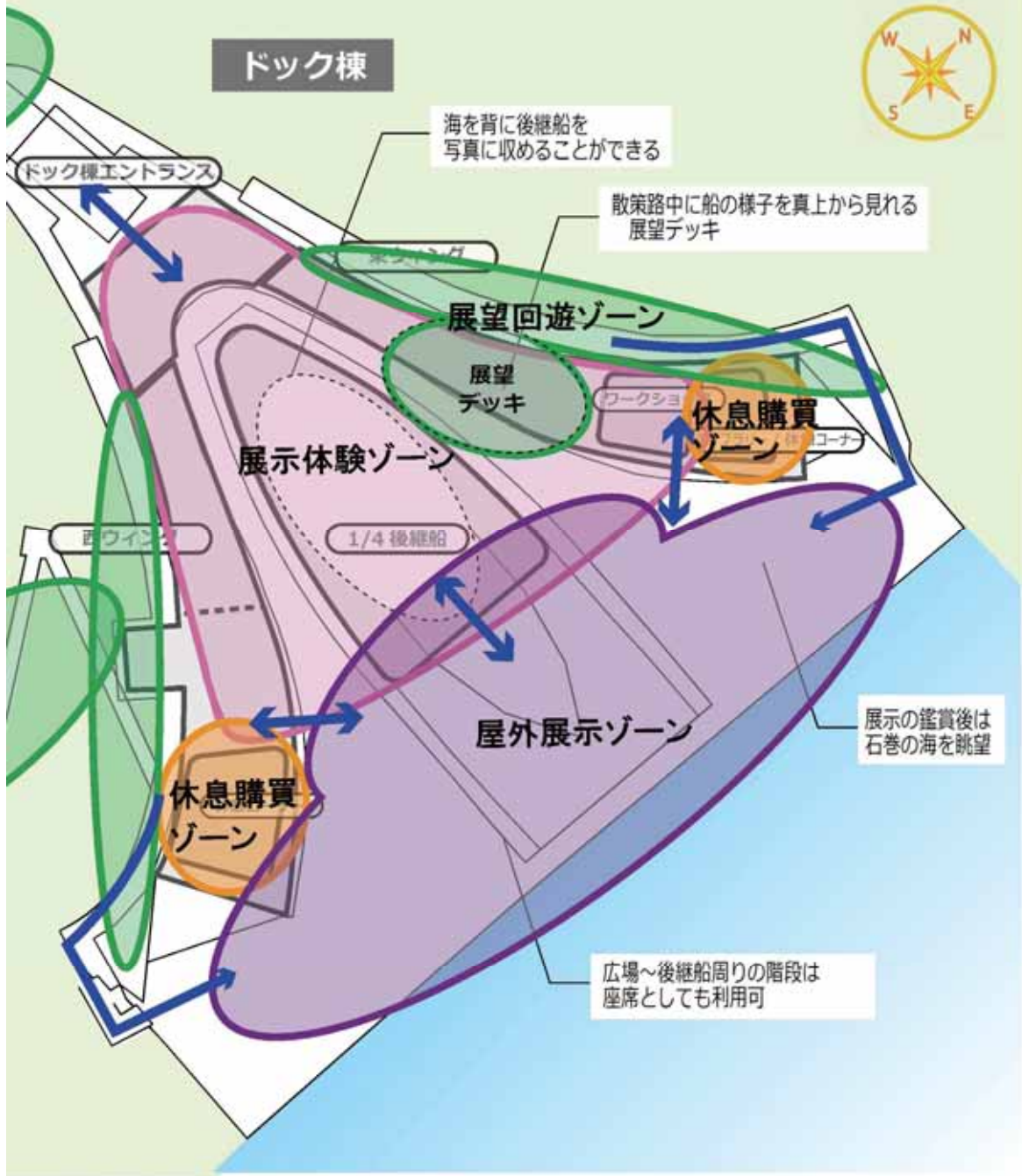
視点⑤  
展望デッキ  
散策路の途中で立ち寄れる  
後継船を身近に眺める

※変更の可能性がある



【ゾーン凡例・概要】

- ・  / 展示体験ゾーン：屋内で展示体験ができる空間
- ・  / 屋外展示ゾーン：屋外で展示体験ができる空間
- ・  / 案内誘導ゾーン：各ゾーンへの案内・誘導を行う空間
- ・  / 休息購買ゾーン：飲食物販や休憩できる空間
- ・  / 展望回遊ゾーン：景観や眺望等を展望できる屋外空間
- ・  / 管理運営ゾーン：バックヤード空間



※変更の可能性がある

## 2. 建築及びドックの改修検討

東日本大震災の際には、ドック棟の屋根の高さを越える津波が押し寄せ、復元船はかろうじてその津波に耐えることができたものの、ドック棟の建築や展示物は大部分が損壊・流失した。

これらの記憶を伝えるとともに、新しい展示体験に合わせて、牡鹿半島の風土・自然の魅力を紹介できる施設として改修等を行う。

また、復元船が設置されているドックについても、復元船解体後の利活用について検討を進める。

### (1) 改修・新設の考え方

展示計画に基づき、建築（展望棟，エスカレーター棟，ドック棟），ドックの改修，展望デッキの新設の考え方を以下に整理する。

#### ① 展望棟・エスカレーター棟の改修の考え方

- ・既存建築を活用する。諸室の仕切りを変更する場合は構造躯体に影響を与えない範囲での整備とする。

#### ② ドック棟の改修の考え方

- ・既存建築を活用して屋根のある半屋外空間とするが、一部は屋内として活用する。
- ・半屋外空間であることを利用して、屋外空間（ドック部）との回遊性を高める。

#### ③ ドックの改修の考え方

- ・太平洋へのつながりが感じられるよう、海と改修したドック部が連続して見えるような整備とする。
- ・ドック部とその周辺に段差が少なく、屋外空間を自由に移動できる空間とする。

#### ④ 展望デッキ新設の考え方

- ・後継船に最も近づいて外観を見ることができる空間とする。
- ・景色や既存建築を阻害しない構造物とする。



## (2) ドック棟の建築リニューアル

ドック棟建築は、既存建築を活用して屋根のある半屋外空間とするが、一部を屋内としてリニューアルすることとし、展示計画等の条件を踏まえて工費、フレキシビリティ性等の評価を行い、最適な計画を行う。

屋内として計画する諸室は、ワークショップや飲食ができるスペース、休憩コーナー、ライブラリーなどを想定して、ドック周辺に訪れた利用者から、ワークショップの様子や、太平洋と夕日等の景色を見ることができるよう透過性のよい壁面として計画する。

## (3) ドックの改修・活用の考え方

深さが8m程度あるドックについては、復元船解体後にドック部分を埋め立て、後継船設置のほか、展示スペースや広場として活用することを前提に、基本設計時にボーリング調査を行って盛土の構造を検討する。

また、海との境界である旧ドックゲート部分は、景観保全の観点などから、周辺に合わせた護岸整備を行う。

なお、高潮や津波（注意報・警報含む）発生時にも利用者の安全を確保できるよう避難計画・連絡体制等の見直しなど安全対策の強化を併せて行う。

## (4) 展望デッキの新設

後継船に近づける展望デッキの新設は、既存建築や景観を阻害しないものとする。柱や階段等が飲食スペースからの眺望やビュースポットでの視角に極力入らないように配置を検討する。

また野外広場やドック周辺との回遊性とも連携して、多様な角度から後継船が見えるように計画する。

## (5) その他

野外広場と展望棟の間の遊歩道が、現状では施設の管理運営ゾーンへと続いているため、利用者が活用できるルートに変更することを検討する。あわせて、ドック棟東側の敷地外区域からの侵入・防犯対策も検討する。

石巻市サン・ファン・バウティスタパークとの連携や機能の分担・すみ分けについては、石巻市と今後の継続的な協議・調整の上、計画を行う。

なお、本計画における設備・展示等の新設・配置は令和2年3月時点の案であり、今後、関係機関との調整等の状況により変更する可能性がある。

## V. 事業計画

---

### 1. 基本的考え方

慶長使節船ミュージアムの改修に合わせて基本理念にもある「地域に愛されるサン・ファン館への再生」に向けて誘客策を展開していく必要があるが、それらの事業へつながる対応例を、「国内交流客」「外国人観光客」「地域利用者」のターゲット別に整理した。

対応例については、ワーキンググループで頂いた意見や、県・石巻市内の観光関連団体や石巻市内の拠点となる施設へのヒアリング調査で頂いた意見を「①交通アクセス改善に向けた関係機関等との検討」、「②おもてなしやサービスの充実による価値創出の検討」、「③地域や周辺施設との連携イベントや情報発信の検討」、「④戦略的な誘客施策の検討」に分類し、まとめている。

なお、ここに提示している対応例は、改修後の管理運営体制や社会情勢等に合わせて実施の可否を検討するものであり、本計画をもって実施を決定するものではない。

#### (1) 国内交流客への対応

##### ① 交通アクセス改善に向けた関係機関等との検討

<対応例>

- ・ **レンタカー**：重要な二次交通となり得るレンタカー会社等との連携
- ・ **サイクリング**：レンタサイクルの充実や新たなサイクリングコースの開発 等

##### ② おもてなしやサービスの充実による価値創出の検討

<対応例>

- ・ **キラークンテンツ**：サン・ファン館に来たくなる来場動機の創出
- ・ **教育旅行**：小学生が学び、楽しめるコンテンツのハード、ソフト面での強化
- ・ **防災教育**：教育旅行の際に、災害・防災教育を担えるコンテンツ整備
- ・ **新たなコンテンツ**：これまでの視点とは違う知的財産（IP）の活用 等

##### ③ 地域や周辺施設との連携イベントや情報発信の検討

<対応例>

- ・ **金華山との連携**：大きな集客力のある金華山観光コースの立ち寄りポイントとして、往路又は復路のいずれかにサン・ファン館を入れ込む
- ・ **イベント**：広域的な誘客や認知が見込める魅力的なイベントの定期的な実施
- ・ **大規模イベントとの連携**：石巻で行われる大規模イベントの際のサン・ファン館への立ち寄り促進イベントや連動企画の実施
- ・ **テーマ誘客**：特定の共通テーマに沿った他の観光地等と連携した相互送客や、観光ルートの設定及び共同での広報・PR 等

#### ④ 戦略的な誘客施策の検討

<対応例>

- ・ **中心市街地との連携**：石巻市内中心部かわまちエリアの観光施設との共同 PR やコース開発，誘客イベントなどの実施
- ・ **部材利用**：復元船の部材等の展示物としての再利用や，新規製作グッズの材料としての活用 等

### (2) 外国人観光客への対応

#### ① 交通アクセス改善に向けた関係機関等との検討

<対応例>

- ・ **クルーズ船への対応**：寄港時におけるサン・ファン館への交通アクセス方法の検討（交通機関のチケットと入館チケットのセット販売など）
- ・ **交通機関との連携**：既存交通機関でのサン・ファン館へのアクセス方法の検討
- ・ **海上からのアクセス**：サン・ファン館への臨時的な海上アクセスや，船上からの施設見学等の検討 等

#### ② おもてなしやサービスの充実による価値創出の検討

<対応例>

- ・ **受入れ環境の整備**：施設内のフリーWi-Fi やサインの多言語化
- ・ **スタッフ教育**：外国語での解説や案内，外国人が親しみやすい接客法の導入
- ・ **アミューズメント要素**：ユニフォームの衣装化等による記念撮影への対応
- ・ **被災地観光**：東日本大震災でのサン・ファン館の被災状況の展示のほか，石巻市内の震災遺構や復興情報センター等との情報発信や送客での連携，連動企画等の検討 等

#### ③ 地域や周辺施設との連携イベントや情報発信の検討

<対応例>

- ・ **グローバルな連携**：サン・ファン・パウティスタ号と関わりのある世界の国々や地域との交流イベントやテーマイベントの開催
- ・ **島部と連携**：外国人観光客に人気の田代島や金華山等との相互送客
- ・ **テーマ誘客**：特定の共通テーマに沿った他の観光地等と連携した相互送客や，観光ルートの設定及び共同での広報・PR 等

#### ④ 戦略的な誘客施策の検討

<対応例>

- ・ **情報戦略**：観光レビューサイトへのアプローチや，多言語での SNS 情報発信
- ・ **商品計画の工夫**：外国人観光客のニーズに配慮した物販での商品開発や仕入れ 等

### (3) 地域利用者への対応

#### ① 交通アクセス改善に向けた関係機関等との検討

<対応例>

- ・ **交通機関との連携**：石巻市内からの既存交通機関での簡便なアクセス方法の検討 等

#### ② おもてなしやサービスの充実による価値創出の検討

<対応例>

- ・ **日常的な来場の促進**：地域の方々が日常的に利用できる施設の整備
- ・ **交流の場としての活用**：お祭りや地域のイベント等での施設開放
- ・ **地域の子供への対応**：遠足や校外学習で郷土の歴史を学び、楽しめるコンテンツ整備 等

#### ③ 地域や周辺施設との連携イベントや情報発信の検討

<対応例>

- ・ **定期的なイベントの実施**：年に数度、地域の方々が来場できるイベント実施の検討
- ・ **広報の強化**：日常的にサン・ファン館を利用していただけるような継続的な広報 等

#### ④ 戦略的な誘客施策の検討

<対応例>

- ・ **サテライトルート**：市中心部とだけでなく市内の観光スポットのキャンペーンやイベント等との相互送客などの連携の検討 等

## 2. 今後の改修スケジュール

### (1) スケジュール

土木・建築改修工事及び展示の更新等についてのスケジュールを記載する。

本改修事業は、以下のようなスケジュールを想定している。工事は令和3年度以降とし、供用開始は最短で令和6年度を見込んでいる。

事業を進めるにあたっては、地域関係者との連携等を考慮して行う必要がある。

|       | 令和元年度<br>(2019) | 令和2年度<br>(2020) | 令和3年度<br>(2021) | 令和4年度<br>(2022)      | 令和5年度<br>(2023) | 令和6年度<br>(2024) |
|-------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------------|-----------------|-----------------|
| 基幹事業  | 全体<br>基本計画      | 全体<br>基本設計      | 全体<br>実施設計      | 工事                   |                 |                 |
| 解体関係  |                 | 解体<br>設計        | 解体<br>工事        | 修復・保存                |                 |                 |
| 土木    |                 |                 | 土木<br>実施設計      | 土木工事                 |                 |                 |
| 建築・展示 |                 | 建築展示<br>基本設計    | 建築展示<br>実施設計    | 建築・展示工事<br>1/4 後継船制作 |                 |                 |
|       |                 |                 |                 |                      |                 | 供用開始            |

※上記スケジュールは最短の想定である。本事業は様々な関係者との調整を並行して進めるため、調整状況により供用開始時期を延期する可能性がある。

## (2) 事業の概算費用

本改修事業の想定概算費用について整理した。

単位：千円

| 項目              | 金額                    |
|-----------------|-----------------------|
| 後継船（4分の1）       | 448,000               |
| 現船解体            | 145,000               |
| ドック改修費          | 199,000 ～ 297,000     |
| ミュージアム整備費（展望棟）  | 415,000 ～ 450,000     |
| ミュージアム整備費（ドック棟） | 387,000 ～ 528,000     |
| その他（散策路整備ほか）    | 0 ～ 80,000            |
| 合計              | 1,594,000 ～ 1,948,000 |

※整備する内容やその工法によって、15.94億円から19.48億円程度と幅が出ている。

今後の基本設計の中で、詳細な整備内容・工法を決定し、金額を精査していく。

※上記概算費用は令和2年3月現在の見込み額である。

※上記には実施設計費及び消費税を含まない。

## VI. 管理運営計画

---

### 1. 基本的考え方

改修基本計画の基本理念を基に、後継船やデジタルコンテンツ等を活用したイベントや利用プログラムを実施し、「教育」の視点では、来館者へ満足の高い学習機会を提供するとともに、「観光」の視点でも来館者が楽しめる事業を充実させ、子供から高齢者、障害者、国内交流客、外国人観光客らが快適に利用できる空間とすることで、より多くの来館者に慶長遣欧使節の偉業を継承していくことを目指す。

実現にあたっては、石巻市をはじめとした関係自治体や地域の方々、本施設を取りまく多様な方々との協働関係を築き、施設づくりや普及・教育活動を行う。

### 2. 開館日時・利用料金等

#### (1) 開館形態

休館日や開館時間は、これまでのものを基本としながら、来館者の利便性を考慮した、開館形態を検討する。

#### (2) 利用料金

利用料金は、受益者負担の考え方や入館者数確保の考え方等を総合的に検討し、設定する。

#### (3) 管理運営費

管理運営費は、施設全体の管理運営費を極力抑えて持続できる仕組みを検討する。

#### (4) 運営体制

運営体制は、より多くの入館者数を確保するため、誘客のための取組や事業・サービスの充実を具体化する体制を整える。運営体制内部の人員の充実とともに、外部機関や人材等との協力・連携関係の構築を検討する。





# 資料編



# 宮城県慶長使節船ミュージアムの今後のあり方検討経緯

## 1 慶長使節船復元船の今後の維持管理検討に関する調査結果について [平成27年6月～12月]

- (1) 目的 復元船の現状及び今後の維持管理を行う上で必要となる方策等の調査を行ったもの。
- (2) 実施機関 株式会社SUN総合
- (3) 調査結果 ① 外観は、日々のメンテナンスにより、問題がないように見えるが、構造体(肋骨)の腐朽はかかなり進行しており、必要強度が著しく低下しているため、危険性が非常に高いと判断される。  
② 船舶の検査を行う管轄官庁の担当者、メンテナンスを行う船舶技術者及び船舶有識者等の意見を集約すると、直ちに崩壊等はしなくとも、現状では後5年はもたないとの見込みである。

※ 調査結果を踏まえ、万が一の場合に備え、平成28年3月23日から見学者の乗船及びドック棟への立入禁止措置をとっている。

## 2 慶長遣欧使節船協会における検討 [平成28年6月～11月]

上記調査結果を受け、慶長使節船ミュージアムの指定管理者である公益財団法人慶長遣欧使節船協会において、平成28年6月9日に「復元船の今後のあり方検討委員会」を設置し、4回の検討委員会を経て、平成28年11月25日に以下の提言書が県に提出された。

- 復元船サン・ファン・パウティスタは、東日本大震災から10年目にあたり、また、慶長使節帰国400年、東京オリンピック・パラリンピック開催などの画期となる平成32年(西暦2020年)まで、改修なしのままの状態で見守りを継続できるよう努められたい。

その後、解体せざるを得ないが、内外の関心が集まるこの間の維持管理、活用に関しては、必要に応じた措置を講じられたい。

- 中核になる復元船を失う宮城県慶長使節船ミュージアム及び石巻市サン・ファン・パウティスタパークについては、20年の実績をもとに、更なる新事業展開を図るための検討を、県、石巻市をはじめ関係団体において、復元船解体時期を勘案しつつ鋭意進められたい。

## 3 復元船の今後のあり方に関する県の方針 [平成29年8月]

- 上記1及び2を踏まえ、以下のとおり県としての方針を決定
  - ・ 慶長使節船復元船サン・ファン・パウティスタを木造船のまま修復し、保存していくことは断念する。
  - ・ 復元船は、日々のメンテナンスを丁寧に行い、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年まで展示する。
- ・ (仮称)「慶長使節船ミュージアムの今後のあり方検討委員会」を立ち上げ、2020年以降のサン・ファン・パウティスタ及びサン・ファン館について具体的に検討していく。

## 4 県の慶長使節船ミュージアムの今後のあり方検討委員会 [平成29年8月～平成31年2月]

| 期   | 日           | 内 容                          |
|-----|-------------|------------------------------|
| 第1回 | 平成29年 8月29日 | 復元船視察、現況説明、意見交換              |
| 第2回 | 平成29年10月24日 | コンセプト(ターゲット)及び復元船後継策の意見交換    |
| 第3回 | 平成29年12月26日 | アーカイブ活用策の紹介・意見交換             |
| 第4回 | 平成30年 3月22日 | アーカイブ業務成果品(VR映像)紹介・誘客施策の意見交換 |
| 第5回 | 平成30年11月 8日 | 復元船後継策(後継船及び新たな展示)の提示・意見交換   |
| 第6回 | 平成31年 2月 1日 | これまでの議論を踏まえた今後の整備の方向性        |

## 5 慶長使節船ミュージアムの今後の整備方針 [平成31年2月]

＜原寸大の迫力を上回る魅力あるミュージアムへの転換＞

慶長使節船ミュージアムを牡鹿半島の玄関口として位置づけ、周辺の観光資源や周辺地域との連携を図り、船、ミュージアム、パークの一体的な活用による賑わいの場を創出することで、慶長遣欧使節の偉業の継承、海洋文化の振興、交流人口の拡大に貢献する(4分の1の後継船整備など)。

復元船後継策について、「あり方検討委員会」では、原寸大を支持する意見もあったが、費用対効果、ドックの活用、原寸のスケール感はドックの大きさやVR活用で体感してもらおう、という意見が大勢を占めたことから、4分の1サイズの後継船を整備することとした。

## 6 宮城県慶長使節船ミュージアム改修基本計画策定ワーキンググループによる検討開始

[令和元年5月～]

- 「今後の整備方針」を具体化するためのワーキンググループを設置  
(委託業務「宮城県慶長使節船ミュージアム改修基本計画策定支援業務」においてWG運営)

| 期    | 日         | 内 容                                                                            |
|------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回* | 令和 5月10日  | ミュージアム・復元船視察、検討経緯及び整備方針説明、意見交換                                                 |
| 第2回  | 令和 6月19日  | 石巻市・宮城県における観光・インバウンドの勉強会、意見交換                                                  |
| 第3回  | 令和 7月26日  | 誘客、現船解体・部材再利用、展示リニューアル、後継船整備(以下、「各検討事項」という)手法について意見交換                          |
| 第4回  | 令和 8月30日  | 各検討事項の課題の共有、方針と対応策に関する意見交換                                                     |
| 第5回  | 令和 9月25日  | 〃                                                                              |
| 第6回  | 令和 10月24日 | 各検討事項のWGとしてのとりまとめ、改修基本計画の理念・方針案の意見交換、展示棟・ドック棟の施設整備案及び1/4後継船の位置付け、コンセプト案の意見交換 等 |

※第1回はキックオフミーティングの位置付け

## 【ワーキンググループ構成員】

- 石巻商工会議所、石巻観光協会、石巻青年会議所、宮城県観光連盟、慶長遣欧使節船協会、石巻市観光課、石巻市教育委員会、県観光課、県東部地方振興事務所、県消費生活・文化課
- 10団体の実務者レベル13人で構成

1 整備方針（総括）

＜原寸大の迫力を上回る魅力あるミュージアムへの転換＞

慶長使節船ミュージアムを牡鹿半島の玄関口として位置づけ、周辺の観光資源や周辺地域との連携を図り、船、ミュージアム、パークの一体的な活用による賑わいの場を創出することで、慶長遣欧使節の遺産の継承、海洋文化の振興、交流人口の拡大に貢献する。

3 具体化に向けた対応

- 県の整備方針や取組を具体化するワーキンググループ（WG）を設置  
（想定 WG：誘客 WG、現船解体・再利用 WG、展示リニューアル WG、後継船整備 WG）  
構成：宮城県、石巻市、（一社）石巻観光協会、（公財）慶長遣欧使節船協会ほか
- ※ 検討内容は平成31年度策定予定の基本計画に反映させる。

2 個別の方針・取組

1 ミュージアム全体の方向性

- 文化施設としての役割を果たすとともに地域振興の拠点として、震災からの創造的復興の象徴となるような施設として貢献
  - ①石巻地域における交流人口の拡大に向けた「賑わいの場」の創出
  - ②牡鹿半島の玄関口として位置付け、ミュージアムとパークの一体的な活用を推進
  - ③周辺施設や周辺地域と連携し、「観光」や「教育」的側面を強化

2 後継船

- 現復元船の迫力を補完する取組と外觀の再現度や維持管理費用を十分に考慮した整備
  - ①素材は再現度と維持管理の容易さを考慮したFRP
  - ②ドックの活用を視野に入れた1/4大で復元
  - ③VR及び展示の工夫で規模感を補完

3 展示策

- これまでの歩みや研究成果を反映する展示や体験型展示、原寸大の規模感を補う展示や映像の工夫
  - ①現船の一部をドック周辺に展示（船艀、肋骨材など）  
→規模感や当時の造船技術を伝えるための展示方策について検討
  - ②ドックの空間活用（プロジェクトショウマッピング、ドック内イベントなど）
  - ③アーカイブ活用大型映像シアターの整備、海洋文化体験ゾーンの設置
  - ④慶長遣欧使節の時代から現在に至るまでのサン・ファンを紹介（別紙参考イメージ）
  - ⑤展示の具体案は新たにワーキンググループを設置し検討

4 誘客策

- 周辺施設や周辺地域と連携し、「観光」や「教育」的側面を強化した文化施設として、石巻地域における交流人口拡大に貢献する取組を推進
- 【観光】
  - ①ミュージアムを軸とした同遊コースの設定
  - ②インバウンド対策に向けた多言語化標識等の整備
  - ③海側からのアプローチを検討
- 【教育】
  - ④県内外教育機関の教育旅行誘致、校外学習での活用促進
  - ⑤大学等のゼミ活動での活用促進
- 【連携・情報発信】
  - ⑥県及び市町村観光部局との連携
  - ・観光拠点としての位置づけ ・広報媒体の相互利用 ・イベントの共同企画など
  - ⑦県及び市町村教育委員会との連携
  - ・校外学習の共同企画（再掲） ・みやぎ県民大学でのメニュー化など
  - ⑧県内外市町村・民間との連携
  - ・慶長遣欧使節と縁のある自治体や各交流団体との共同企画、広報媒体相互利用
  - ・石巻DMO、リノベーション・フェスティバル、ツール・ド・東北との連携
  - ・JRR日本との連携、東京アンテナショップの活用 など
- 【二次交通】
  - ⑨「二次交通」の充実に向けた関係機関との連携

（参考1） 整備方針決定までの経緯

- 慶長使節船復元船サン・ファン・パウチェイスタについて、県では、平成29年8月に、「復元船を木造船のまま修復し、保存していくことは断念する」「復元船は、日々のメンテナンスを丁寧に行い、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年まで展示する」などの方針を決定。
- 2020年以降の復元船及び慶長使節船ミュージアムの在り方については、「慶長使節船ミュージアムの今後のあり方検討委員会」での意見等を踏まえ、県としての整備方針を決定。

【今後のあり方検討委員会開催状況】

| 期   | 日             | 内容                           |
|-----|---------------|------------------------------|
| 第1回 | 平成29年 8月 29日  | 復元船視察、現況説明、意見交換              |
| 第2回 | 平成29年 10月 24日 | コンセプト（ターゲット）及び復元船後継策の意見交換    |
| 第3回 | 平成29年 12月 26日 | アーカイブ活用策の紹介・意見交換             |
| 第4回 | 平成30年 3月 22日  | アーカイブ業務成果品（VR映像）紹介・誘客施策の意見交換 |
| 第5回 | 平成30年 11月 8日  | 復元船後継策（後継船及び新たな展示）の提示・意見交換   |
| 第6回 | 平成31年 2月 1日   | これまでの議論を踏まえた今後の整備の方向性        |

（参考2） あり方検討委員会における主な意見（全体：延べ120件）

- 1 ミュージアム全体の方向性（24件）
  - ①慶長遣欧使節の遺産の継承という役割を継承しつつも観光施設としての位置づけを明確にしてほしい。
  - ②船、ミュージアム、パークが一体になって次へ進むべき。観光戦略の一環として一体的に取り組みたい。
  - ③観光資源として魅力ある牡鹿半島の中の一施設として広い視野の中であり方を検討すべき。
- 2 復元船の後継船（37件）
  - ①見た目の迫力は原寸大に勝るものはない。
  - ②原寸大での復元を希望するが、船について何を伝えていくか整理し、それが伝わるのであれば原寸大にはこだわらない。費用対効果の十分な検証を。
  - ③1/4大案はドック活用で企画の自由度が高まる。原寸のスケール感はドックの大きさやVR活用で体感できる。船にこだわらず観光のツールとして活用してはどうか。
- 3 展示策（アーカイブ・ドック活用、展示室等）（20件）
  - ①復元船建造後に明らかとなった研究成果や仙台湾の造船技術などを新たな展示に反映させてはどうか。
  - ②子どもたちが体感できる体験教室プログラムの導入を。
  - ③ドック活用は非常に面白い。現船の活用方策や映像のクオリティなど原寸大の迫力を上回るコンテンツのイメージがほしい。展示棟のシアターや展示室の具体案を示してもらいたい。
- 4 誘客施策（39件）
  - ①石ノ森萬国館などとの施設間、近隣地域の観光資源と連携し賑わいを創出することが重要。
  - ②インバウンド促進に向け、県・市観光戦略への位置づけやJRR仙台駅・仙台空港からの情報発信が大事。
  - ③観光、教育分野との連携や震災の風化防止を目的とした取組を充実させる必要がある。

宮城県慶長使節船ミュージアム  
改修基本計画策定ワーキンググループ設置要領

(設置の目的)

第1条 慶長使節船ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）に展示されている慶長使節船復元船サン・ファン・パウテイスタ（以下「復元船」という。）は、船体の腐朽が著しく進行していることから、2020年まで展示し、その後は解体されることが決定している。

また、宮城県（以下「県」という。）では、慶長使節船ミュージアムの今後のあり方検討委員会を設置し、2020年以降のミュージアムの在り方について意見を伺い、検討の上、慶長使節船ミュージアムの今後の整備方針（以下「整備方針」という。）を策定した。

宮城県慶長使節船ミュージアム改修基本計画策定ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）は、整備方針の具体化に向けた検討を行い、宮城県慶長使節船ミュージアム改修基本計画（以下「基本計画」という。）に反映させることを目的に設置する。

(所事事務)

第2条 ワーキンググループは、次の各号に定める事項について検討を行うものとする。

- (1) 基本計画に関すること。
- (2) ミュージアムへの誘客促進に関すること。
- (3) 復元船の解体及び解体後の部材の再利用に関すること。
- (4) 復元船の後継船に関すること。
- (5) ミュージアムのリニューアル展示に関すること。
- (6) その他整備方針に関すること。

(組織)

第3条 ワーキンググループのメンバーは、別表1に掲げる所属の職員をもって構成する。

2 メンバーの任期は、当該メンバーが就任を承諾した日から最終のワーキンググループ開催日までとする。

(会議)

第4条 ワーキンググループは、県環境生活部消費生活・文化課長が召集する。

2 ワーキンググループは、別表2に掲げるテーマに応じて出席メンバー（代理出席者含む。）全員で、又はメンバーを選抜して検討する形式のいずれかで開催する。

3 ワーキンググループには、必要に応じてワーキンググループにメンバー以外の者を出席させ、助言、説明を求めることができる。

(運営及び計画への反映)

第5条 ワーキンググループの運営は、県又は県が指定する者が行う。

2 県は、ワーキンググループの検討結果を尊重し、可能な限り基本計画に反映させるものとする。

(メンバーの代理出席)

第6条 メンバーは、やむを得ない事由によりワーキンググループに出席できないときは、当該メンバーが所属する団体の他の職員を代理人として選任し、その職務を行わせることができる。

(秘密の保持)

第7条 メンバーは、業務上知り得た秘密を漏らしてはならない。また、その業務を終えた後も同様とする。

(庶務)

第8条 ワーキンググループの庶務は、県又は県が指定する者において処理する。

(その他)

第9条 この要領に定めがあるもののほか、ワーキンググループの運営に関し必要な事項は、県が別に定める。

附 則

この要領は、令和元年6月19日から施行する。

別表1 (第3条関係)

| 所 属               |
|-------------------|
| 石巻商工会議所           |
| 一般社団法人石巻観光協会      |
| 一般社団法人石巻青年会議所     |
| 公益社団法人宮城県観光連盟     |
| 公益財団法人慶長造船使節船協会   |
| 石巻市産業部観光課         |
| 石巻市教育委員会学校教育課     |
| 宮城県経済商工観光部観光課     |
| 宮城県東部地方振興事務所地方振興部 |
| 宮城県環境生活部消費生活・文化課  |

別表2 (第4条関係)

| テーマ                       |
|---------------------------|
| 基本計画に関すること等               |
| ミュージアムへの誘客促進に関すること等       |
| 復元船の解体及び解体後の部材の再利用に関すること等 |
| 復元船の後継船に関すること等            |
| ミュージアムのリニューアル展示に関すること等    |



---

宮城県慶長使節船ミュージアム

改修基本計画

令和2年3月 発行

宮城県

環境生活部 消費生活・文化課

---